

養老町都市計画マスタープラン 資料編

令和2年3月

養老町

目 次

第1章 都市の広域的位置づけ	1
1-1 広域的特性.....	1
1-2 上位計画・関連計画における位置づけ.....	4
第2章 都市の特性と動向分析	15
2-1 自然的条件.....	15
2-2 歴史的条件.....	17
2-3 人口・世帯数.....	18
2-4 土地利用及び建物利用.....	22
2-5 産業構造.....	26
2-6 交通体系.....	30
2-7 市街化の状況と動向.....	39
2-8 都市施設整備状況.....	45
2-9 関連法規制状況.....	51
2-10 その他.....	57
2-11 現況のまとめ.....	69
第3章 住民意識の把握	73
3-1 アンケートの実施状況.....	73
3-2 アンケートの解析結果.....	74



第 1 章 都市の広域的位置づけ

1-1 広域的特性

1-2 上位計画・関連計画における位置づけ



第 1 章

第1章 都市の広域的位置づけ

1-1 広域的特性

1. 養老町の位置

養老町（以下、「本町」という。）は岐阜県の南西部の西濃圏域に位置し、大垣市や海津市をはじめ3市2町に隣接しています。また、濃尾平野の最西端であり、揖斐川やその支流の牧田川・津屋川などにより形成される輪中地域に位置しています。

西側には養老山地が位置し、“孝子伝説”で名高い「養老の滝」や養老公園があります。東側は、居住地と田園が広がっています。

本町の規模は、東西約10km、南北約12km、総面積72.29km²となっています。

図 位置図



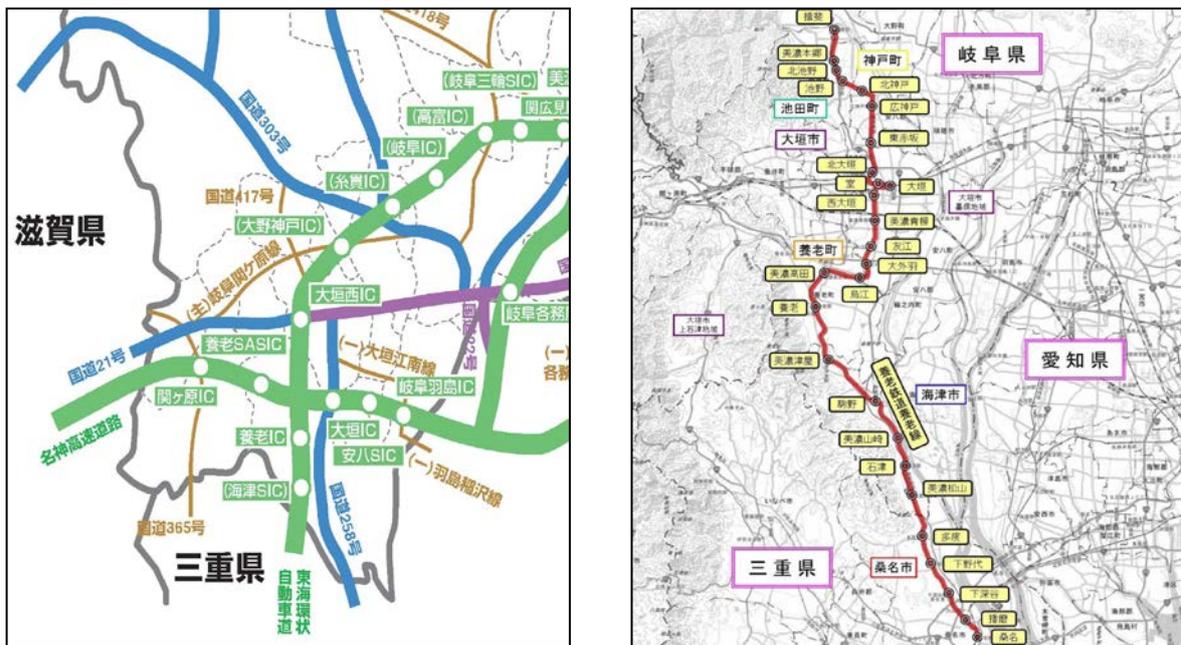
2. 周辺市町との結びつき

本町が属している西濃地域の主要道路網は、東西に名神高速道路・一般国道21号が横断し、南北には一般国道258号が縦断して基幹交通網を形成しており、これに主要地方道・一般県道などがアクセスし、交通ネットワークを形成しています。本町においても、一般国道258号・(主)大垣養老公園線・(主)南濃関ヶ原線は、広域のネットワークを構成する主要幹線であり、周辺都市との連絡に欠くことができない道路となっています。

また、西濃地域を南北に縦貫し、東海北陸自動車道と新名神高速道路を結ぶ東海環状自動車道が計画されており、現段階で大野神戸ICから養老ICまでが開通しています。今後も整備が進むことで更に周辺都市との交流が深まることが予想されます。

鉄道は、養老鉄道が岐阜県揖斐川町から三重県桑名市間の3市4町を運行し、町内外や他の主要都市と連絡する重要な役割を担っています。

図 交通体系



※2020年3月時点で、高富ICは山県ICに変更されました。

【資料：県土1700km骨格幹線ネットワーク構想、養老線交通圏地域公共交通網形成計画】

3. 養老町を取り巻く環境（岐阜県の動向）

岐阜県の人口は、2005年頃を境に減少局面に入り、2035年には、現在の約210万人よりも約50万人少ない約160万人へと、大きく減少することが見込まれています。総人口は、1960年頃と同じ規模になるものと思われませんが、人口構造は大きく変化し、当時約3割を占めていた子どもの数が1割を下回り、逆に1割も満たなかった高齢者の数が3割以上に及ぶ「超少子高齢社会」となると考えられます。本町でも、2015年の国勢調査で人口は3万人を下回り、高齢化率は3割弱となりました。また、長く続いてきた少子化世代が既に20～30代に達していることも影響し、地域の経済・社会を支える中心的な世代である15～64歳の生産年齢人口が急激に減少していくと見込まれています。そのため、岐阜県では今後増加する高齢者などが安心して暮らせるふるさと岐阜県づくりを目指しています。

産業・経済では、長く続いている少子化の影響が現れ、生産年齢人口は年々減少しています。現在そのまま推移した場合、2005年の113万人から2035年には82万人程度と、約31万人（約3割）減少すると見込まれます。本町では、2005年から2016年にかけて生産年齢人口は約1万人で横ばいとなっています。県内産業では、介護、福祉などの現場においても、働き手の不足が恒常化するだけでなく、業務内容の縮小を余儀なくされる企業などが現れるおそれもあります。今後は、人口減少に伴う国内市場の縮小が見込まれ、規模の拡大のみを重視する経営は成り立たなくなると考えられるなかで、より高い生産性を発揮し、低コストで高い付加価値を追求する産業を作り上げていくことが課題となります。そのため岐阜県では、生産性や付加価値の向上のため、生産性の高い人材の育成等を行っています。

また、岐阜県では現在本町を縦貫する東海環状自動車西回り区間が整備中となっています。本町では、2017年10月に東海環状自動車西回り区間に直接アクセスできる養老ICが開通したほか、2018年6月には名神高速道路に直接アクセスできる養老SAスマートICが開通し、交通の便が格段に良くなりました。中部圏においては、東海北陸自動車道・東海環状自動車道東回り区間や中部国際空港など交通インフラ整備が進んだことにより、人・モノの広域的な動きが活発になっており、行政区域を越えた観光交流ルートの設定の進展など、地域間連携が広がりを見せています。さらに、概ね2027年頃を目途に東京-名古屋間を結ぶリニア中央新幹線の整備が進んでいます。首都圏との往復時間の大幅な短縮により、首都圏と中部圏の交流が進み、海外・首都圏等からの誘客の拡大など、地域経済への大きなインパクトが期待されています。そのため、岐阜県では地域資源を活用した付加価値の高い地場製品の開発の支援を行っています。

1-2 上位計画・関連計画における位置づけ

1. 養老町第五次総合計画

策定年度	2011年3月
策定主体	養老町
計画期間	2011年度～2020年度
概要	
<p>■基本理念 「みんなで力を合わせる絆のまちづくり」</p> <p>■将来像 「誇りと愛着が持てる 絆を大切にするまち 養老」</p> <p>■戦略プログラム</p> <p>①養老・活力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通立地を活かす活力基盤づくりと事業所などの誘致、地元企業などの育成、起業・事業興しの促進 ・農業の活性化と複合産業づくり ・若者・子育て世代の定住促進 <p>②養老・魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養老ならではの“癒し”環境の活用 ・養老ならではの“親孝行の心”のまちづくり ・養老からの情報発信と交流の力の活用 <p>③養老・地域力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治力の発揮 ・地域協働力の発揮 ・地域経営力の増強 <p>■分野別計画</p> <p>①輝く人のまち【人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心を育むまちづくり ⇒・幼稚園・学校施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・関連施設の機能整備の推進 ・まちづくり、地域課題対応の学習企画の推進 ・スポーツ施設の機能整備 ○地域文化を育むまちづくり ⇒・全国的な“養老”交流ネットワークづくりの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の有効活用 ・文化観光づくりの推進 ・指定文化財、歴史文化資源の保存の充実 ・歴史文化観光づくりの推進 ○人権の尊重と男女共同参画のまちづくり ⇒子育て支援環境と就労条件の整備促進 	

②活力のあるまち【基盤】

○便利な交通網・情報基盤づくり

- ⇒ ・ 駅周辺整備と連携したパーク＆ライド環境などの整備
- ・ 路線バスの確保と公共施設巡回バス（げんちゃん号）の運行改善
 - ・ 補完的な交通手段の確保
 - ・ 東海環状自動車道養老インターチェンジの整備
 - ・ 名神高速道路養老サービスエリアスマートインターチェンジの整備
 - ・ 広域幹線道路の改良整備の促進
 - ・ 生活道路の整備
 - ・ 道路の安心・安全環境の整備
 - ・ 沿線美化や緑と花の景観づくり活動の推進
 - ・ 地域協働での維持管理の推進
 - ・ 防災行政無線施設の整備

○快適な市街地・集落環境づくり

- ⇒ ・ 町都市計画マスタープランの推進
- ・ コンパクトな街づくりの推進
 - ・ 沿道商業機能などを核とする新市街地の形成
 - ・ 養老インターチェンジを活かす土地需要への対応
 - ・ 幹線道路沿線などの沿道地区開発
 - ・ 集落基盤整備の推進、良好な住環境の維持
 - ・ 田園環境を活かした新定住者の創出
 - ・ 空き家などの調査と利活用の促進
 - ・ 各地区の拠点施設の整備
 - ・ 宅地開発への適正な開発指導の推進
 - ・ 子育て世帯の定住を促進する住宅整備の誘導
 - ・ 水道施設整備の推進
 - ・ 下水道施設の適正な維持管理

○活気ある産業づくり

- ⇒ ・ ほ場や用排水施設など施設整備の推進、維持管理
- ・ 農地の保全
 - ・ 遊休農地の再利用
 - ・ 畜産環境の整備
 - ・ 新規就農の促進
 - ・ 産直販売体制の整備
 - ・ 農業を活かした交流やグリーン・ツーリズム企画の展開
 - ・ 商業街区の環境整備
 - ・ 新規事業への支援
 - ・ 養老インターチェンジの波及効果を活かす立地促進
 - ・ 東海環状自動車道沿線地域などと連携した誘致活動
 - ・ 養老公園の再整備
 - ・ 養老の滝周辺の整備
 - ・ 健康づくりゾーンの整備
 - ・ バリアフリーの環境整備の推進
 - ・ レンタサイクルの提供
 - ・ 養老鉄道と連携した企画商品の強化
 - ・ 地場製品の販売促進
 - ・ 食肉関連事業との連携

③安心・安全なまち【暮らし】

○支え合うまちづくり

- ⇒ ・子どもたちの遊び場、活動の場の充実
・交通手段の確保
・憩いと集いの場づくり

○環境と共生するまちづくり

- ⇒ ・環境にやさしい農業の展開
・公園施設の整備

○安全なまちづくり

- ⇒ ・道路交通環境の改善
・治水・治山事業の推進
・危険箇所、避難路や避難所などの周知

④地域経営の推進

○住民主役のまちづくり

- ⇒ ・住民自治のまちづくり指針の樹立
・地域協働を先導する活動組織の育成

○行財政の経営（運営）

- ⇒ 指定管理制度、民営化、PFI などの持続的な検討

3. 養老町人口ビジョン・「絆を大切にすまちなち養老」創生総合戦略

策定年度	2015年10月
策定主体	養老町
計画期間	2015年度～2040年度（人口ビジョン） 2015年度～2019年度（創生総合戦略）
概要	
<p>～人口ビジョン～</p> <p>■人口の将来目標</p> <p>人口の減少傾向に歯止めをかけるためには、結婚や出産・子育て支援に関する施策を充実させるとともに、雇用環境の充実や交通事情の改善などにより、若い世代の流出を抑制していく必要があると思われます。</p> <p>しかし、年々未婚率が上昇し、晩産化の傾向が進んでいる現状に加えて、若い世代において、将来的に結婚する意志はあるものの、婚活をしていない人の割合が高いといった傾向を踏まえると、国の長期ビジョンと同様に合計特殊出生率を人口置換水準である2.1まで上昇させることは容易なことではないと考えます。</p> <p>そのため、今後は、結婚や就職などを機に転出する若い世代を減らしながら、豊かな自然や良好な居住環境を求めて転入する人を増やし、できるだけ人口の社会減を抑制していく施策を展開することが実効性のある取組と思われます。</p> <p>以上のことから、合計特殊出生率の水準を維持しつつ、転出超過を現在の半分程度に縮小させていくという設定で推計した数値が最も現実的であると考えられることから、2040年の養老町の人口の将来目標を23,000人と設定します。</p> <p>～創生総合戦略～</p> <p>■基本的視点</p> <p>①人口の自然減に対する取り組み</p> <p>豊かな自然や良好な居住環境の中で、子どもを生き育てたいという希望をかなえ、安心して子育てができるまちづくりを町民と一体となって進めます。</p> <p>また、これからの養老町を担う子どもたちを地域とともに育むことにより、“養老で、子どもを生き育てたい”という人々を増やすことにより、人口の自然減を減らします。</p> <p>②人口の社会減に対する取り組み</p> <p>人口減少に伴う地域の変化に備えて、将来にわたって住み続けることができる地域づくりを町民との協働により進めます。</p> <p>また、企業誘致や観光の振興などにより、新たな雇用の場をつくることのほか、若者をはじめ、女性や高齢者が活躍できる場をつくることにより、“養老で暮らし、自分らしく生きる”という人々を増やし、人口の流出を抑制し新たな定住人口を確保するための取組を進めることで、人口の社会減を減らします。</p> <p>③人口減少社会に対する取り組み～「岐阜県人口ビジョン」より～</p> <p>社会の担い手である現役世代を中心に人口が減少する一方で、高齢者が増加してくことにより、現在の社会構造のままでは地域の活力が減退していくことが懸念されます。地域が活力を維持し、住民が安心して暮らすことができるよう、地域活動の担い手育成や医療・介護などの政策を、多様な主体との連携のもと展開していきます。</p>	

■基本目標

- ①人が輝き、絆を育むまちづくり
 - ・結婚、出産、子育てへの切れ目のない支援
 - ・女性の活躍の支援
- ②活気にあふれ、便利で快適なまちづくり
 - ・産業の振興
 - ・観光振興と養老ブランド戦略の推進
 - ・未来につながる農業づくり
 - ・緑豊かな森林づくり
 - ・スポーツ、文化、芸術の振興による地域活性化
- ③ふるさと養老の魅力を生かしたまちづくり
 - ・移住、定住の促進
 - ・就労支援の推進
 - ・大学等高等教育機関との連携
- ④地域協働による、安心安全なまちづくり
 - ・暮らしの安全、安心の確保
 - ・医療と福祉の充実、連携
- ⑤広域連携による、西濃圏域の新たな魅力づくり
 - ・連携体制の構築による事業の推進

5. 養老線交通圏地域公共交通網形成計画

策定年度	2017年10月
策定主体	養老町
計画期間	2017年度～2026年度

概要

■将来像

地域の「豊かな生活」と「活発な交流」を支える養老線と沿線バス交通やタクシーが一体となった公共交通ネットワークの形成

■基本方針

- ①養老線駅等を中心とした集約連携型のまちづくりと一体となった公共交通ネットワークを形成します。
- ②養老線を地域の生活軸とする公共交通サービスを充実します。
- ③養老線を観光・交流軸とする公共交通ネットワークを形成します。
- ④多様な移動ニーズに対応した取り組みを関係者の協働により進めます。

■公共交通ネットワークイメージ



6. 養老町公共施設等総合管理計画

策定年度	2017年3月
策定主体	養老町
計画期間	2017年度～2027年度
概 要	
<p>■基本方針</p> <p>①公共施設基本指針</p> <p>〈公共施設運営コストの適正化（質の向上）〉 施設機能の維持向上をより少ない経費で行うため、老朽化した施設の除却や新しい施設の複合化・多機能化を推進すると共に、民間の技術・ノウハウ、資金等の活用を積極的に導入します。</p> <p>〈中長期的視点でのトータルコスト削減（更新費用・管理運営費の財源確保）〉 除却した施設の土地については、売却や貸付等により、更新費用や管理運営費の財源確保に努めます。</p> <p>〈公共施設の総量の検討（適正配置）〉 施設の適正配置の観点から、施設の（建替え）又は大規模改修（長寿命化）を行う場合はゼロベースで検討し、施設を新設する場合は他の施設の統合を前提として建設します。</p> <p>②インフラ施設基本方針</p> <p>〈更新費用の縮減と平準化〉 インフラ施設の更新は、重要度と緊急度により優先順位を決めた上で計画的に実施することで、更新費用の縮減と平準化を図ります。</p> <p>〈長寿命化〉 予防保全型の維持補修を進め、インフラ施設の安全性の確保やライフサイクルコストの縮減を図ります。</p> <p>〈投資額の確保〉 インフラ施設に係る投資額は、毎年度安定的に確保します。</p> <p>■目標</p> <p>養老町の公共施設は、学校教育系施設、公営住宅、町民文化系施設が約7割を占めており、これらの施設を中心に公共施設の削減を図ることになります。年間の更新費用を現在の投資額まで縮減することを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後見込まれる、公共施設の更新費用の不足分を補てんするため、まず予防保全の考え方のもと、建物の劣化を未然に防ぎ、長寿命化を推進します。現在の試算条件である更新期間を延長（建替え60年を70年、大規模改修30年を35年）した場合の更新費用試算額は、40年間の総額635.5億円となり、当初試算額から約17%相当の年間3.1億円を削減できる見込みです。 ・人口1人当たりの延床面積を、5.42㎡から全国平均レベル（3.42㎡）を目標として削減します。施設の更新時に統合・複合化を積極的に行い、普通財産等使用していない施設については、適宜除却を行います。延床面積を全体の5%を最低目標として削減し、努力目標としてさらに削減も視野に入れ、それらに伴うライフサイクルコスト全体の削減によって、トータルコストの31%に相当する5.9億円のコスト削減を図ります。 ・さらなる維持管理コスト削減のため、設備の省エネ化、PPP/PFIの活用等を行いつつ、コストの経年変化を把握し、維持管理コストの適正化を行っていきます。 	

7. 東海環状自動車道整備

策定年度	—
事業主体	国土交通省
計画期間	—
概要	

■機能

- ・ 東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道、新東名高速道路、新名神高速道路の6本の放射状道路を連結
- ・ 広域ネットワークを構築することで、企業活動の向上、物流の効率化、観光活性化等様々なストック効果を発揮

■詳細

路線名：一般国道475号

起点：愛知県豊田市（新東名高速道路豊田東JCT）

終点：三重県四日市市（新名神高速道路新四日市JCT）

延長：約160km（岐阜県内約100km）

道路区分：第1種2級

設計速度：100km/h

車線数：4車線（土岐JCT～新四日市JCTは暫定2車線）

■路線図



※2019年9月時点

【資料：岐阜県 HP】

第2章 都市の特性と動向分析

- 2-1 自然的条件
- 2-2 歴史的条件
- 2-3 人口・世帯数
- 2-4 土地利用及び建物利用
- 2-5 産業構造
- 2-6 交通体系
- 2-7 市街化の状況と動向
- 2-8 都市施設整備状況
- 2-9 関連法規制状況
- 2-10 その他
- 2-11 現況のまとめ



第2章

第2章 都市の特性と動向分析

2-1 自然的条件

1. 地形

本町は、濃尾平野の最西端にあり、西側には急峻な養老山地が連なり、そこから扇状地を経て、東側には中小河川によってできた平野がひらけています。西部の養老山地は一枚の大きな屏風を立てたように南北に走り、山腹から麓にかけての斜面は、大きな落差の断層のため急ながけとなり、多くの谷と滝が見られます。また、そこから続く扇状地は、大半が砂や小石からできているため、谷川の水は地下にしみ込み、扇状地の末端で「河間」と呼ばれる泉となって湧き出しています。東側の平野部は、町の東端を流れる揖斐川及びその支流にあたる牧田川、津屋川などの河川により形成される輪中地帯で、その大半は海拔0メートルに近い低湿地となっています。

表 主要な山

	養老山	小倉山	あせび平	象鼻山
標高 (m)	859.3	820.0	750.0	141.7

【資料：養老町統計書】

2. 地質

地質構造上からは、養老山地の大部分は古生代の古生層からできていますが、東麓のなだらかな傾斜で細長く続いている扇状地は新生代の第四紀前半の洪積層、津屋川より東の平野は第四紀後半の沖積層からできている最も新しい地層です。

3. 河川

本町を流れる主要な河川は、下表のとおりであり、東端を流れる一級河川揖斐川とその支流である一級河川牧田川・杭瀬川等がみられます。

表 一級河川

河川名	河川延長 (km) (町内流域分)	河川名	河川延長 (km) (町内流域分)
牧田川	15.5	色目川	2.9
五三川	6.0	杭瀬川	2.8
金草川	5.4	揖斐川	2.5
小畑川	4.7	泥川	2.2
津屋川	4.1	相川	1.6
五日市川	3.0	石畑川	0.9

【資料：養老町統計書】

4. 活断層

本町には、養老山地に沿って活断層（養老-桑名-四日市断層）が確認され、撓曲^{とうきよく}変形を伴うに西上がりの逆断層となっています。

2-2 歴史的条件

1. 沿革

本町の歴史は古く、縄文時代から弥生時代にかけて養老山麓沿いで稲作文化が形成されており、数多くの貴重な古墳が点在しています。なかでも象鼻山山頂にある前方後方墳は、日本最古級の古墳といわれており、双鳳紋鏡や朱入り壺など貴重な品が出土しています。

また、日本武尊が伊吹山を平定し、伊勢に下った頃から伊勢街道がひらけ、大和朝廷が全国を統一した律令時代になると、物部氏の一族多芸氏が武民を従え、この地に移住し、高い文化を形成しました。

717年、元正天皇は本町に行幸され、その素晴らしい美泉に感動したことから、年号を「養老」に改元したといわれています。

平安時代になると、象鼻山麓と養老山麓に多芸七坊の大伽藍が立ち並び、文化の発信地として栄えています。

その後、この地は平治の乱や織田信長による焼き討ち、関ヶ原の合戦などの戦乱に巻き込まれ、さらに度重なる水害で荒廃しましたが、江戸時代には薩摩義士による宝暦治水や長州藩御手伝普請等が行われ、本町は勢いを取り戻しました。その頃、船附・栗笠・烏江の3つの湊みなとがおおいに栄えたことから、高田や室原の曳山車山、栗笠の獅子舞などの高い民族文化や芸能が今に伝えられています。

現在本町は、2017年10月に東海環状自動車道に養老ICが、2018年6月には名神高速道路に養老SAスマートICが開通し、交通の便が良くなったことで、県営養老公園内の「養老の滝」や日本百名水に選定された「菊水泉」、体験型芸術庭園「養老天命反転地」などの観光地がさらに賑わいをみせています。

町域の変遷としては、1954年11月に高田町・養老村・広幡村・上多度村・笠郷村・小畑村・多芸村・池辺村(大字駒野新田、釜段字徳島を除く)・日吉村・不破郡合原村の室原地区が合併し、養老町が発足しました。1955年4月には海津郡南濃町の若宮・船見・一色を編入し、1978年9月の大垣市綾野字高畑の一部境界変更、2013年の下池西部地区の一部境界変更を経て、現在に至っています。

2-3 人口・世帯数

1. 人口

本町の総人口は減少傾向にあり、2015年には29,029人となっています。年齢別にみると、15歳未満、15～64歳人口は減少傾向にあります。一方で、65歳以上は増加傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

また、高齢化率は海津市を除く周辺市町や、岐阜県よりも高い28.9%になっており、高齢化が進んでいます。

図 人口推移・年齢別人口推移

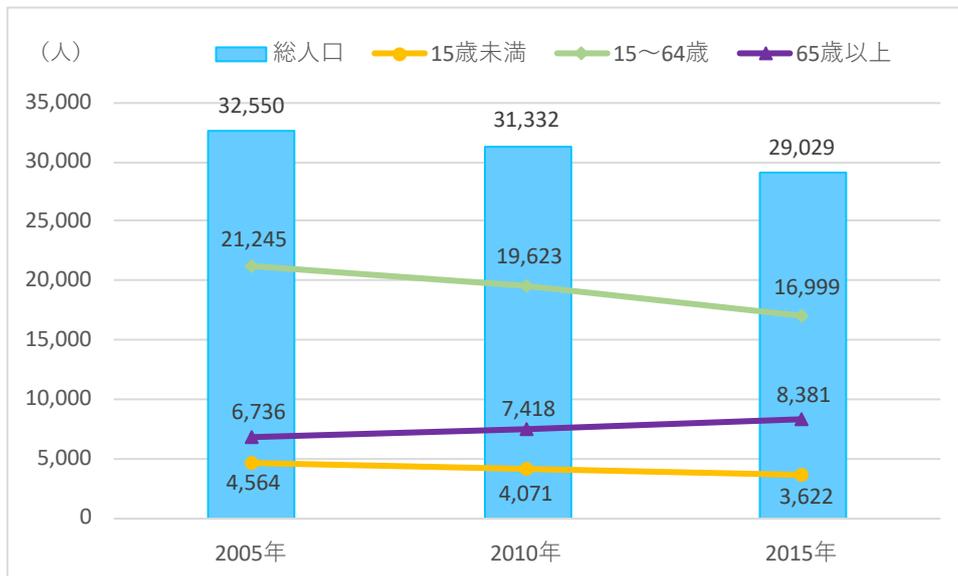
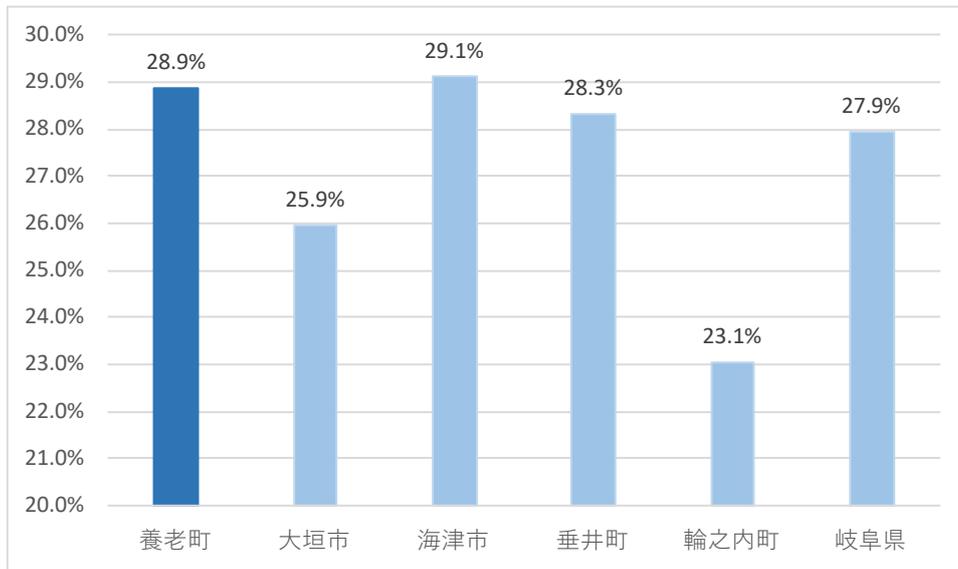


図 周辺市町の高齢化率(2015年)



【資料：国勢調査】

2. 世帯数

本町の世帯数は減少傾向にあり、2015年には9,378世帯となっています。また、世帯人員も減少傾向にあり、2005年の3.45人/世帯から2015年には3.10人/世帯となっています。そのため、核家族化や高齢単身世帯の増加が進んでいます。

世帯人員を比較すると、本町は輪之内町を除く周辺市町や岐阜県よりも高くなっています。

図 世帯数・世帯人員の推移

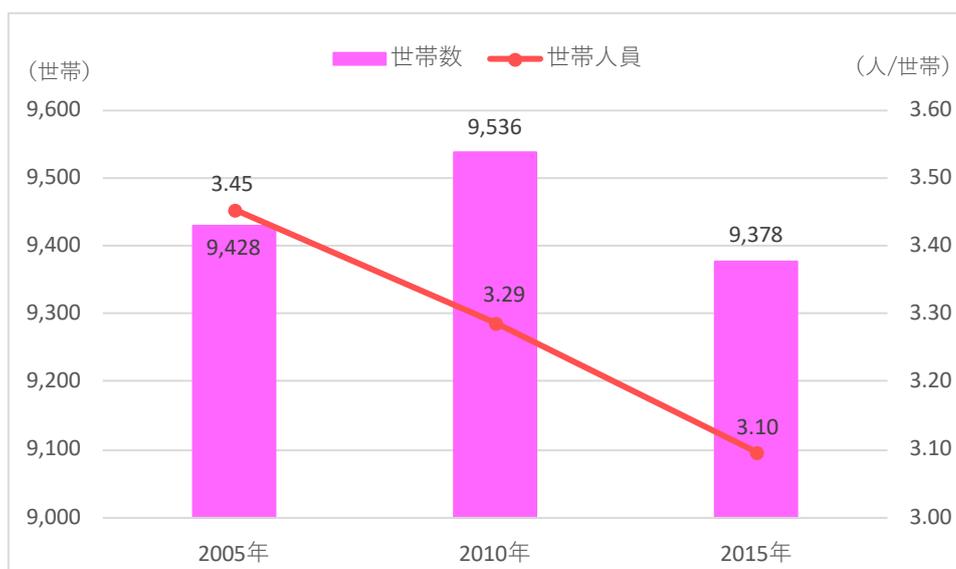
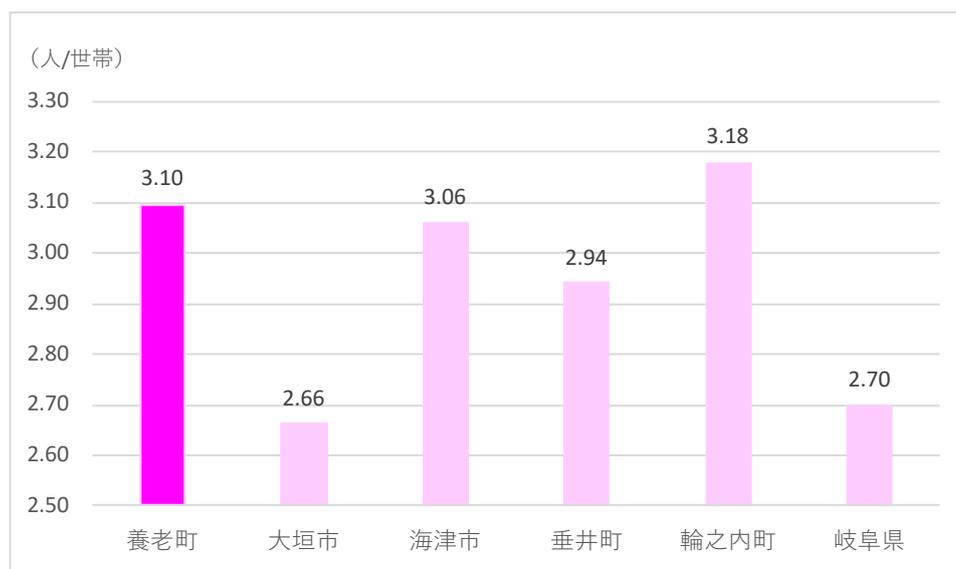


図 周辺市町の世帯人員(2015年)



【資料：国勢調査】

3. 人口動態

人口の自然増減をみると、出生数が減少しているのに対して、死亡数が増加しているため減少傾向になっています。

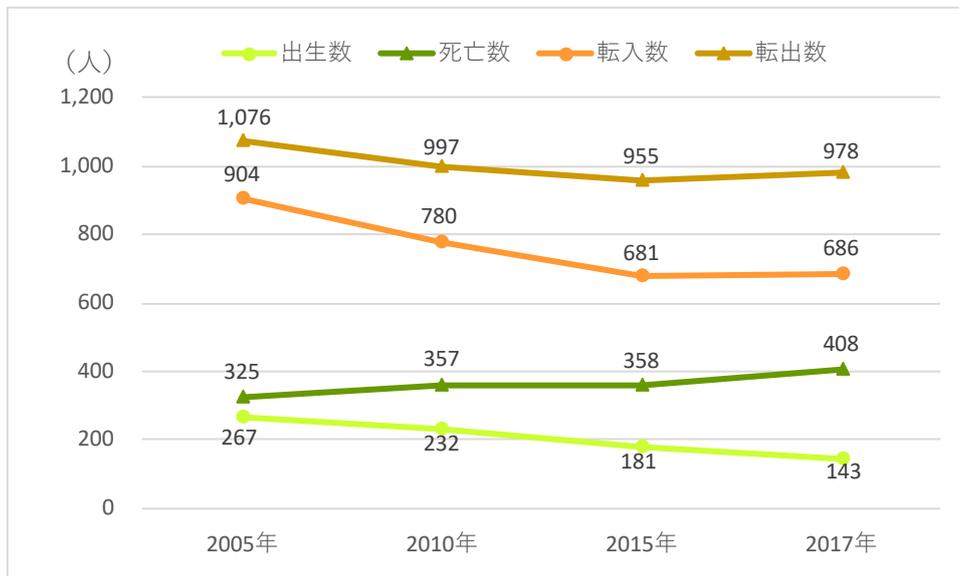
社会増減についても、転入数が概ね横ばいであるのに対して、転出数が増加しているため自然増減と同様に減少傾向となっています。

自然増減・社会増減ともに減少傾向にあるため、人口動態も減少傾向にあり、人口が年々減少しています。

表 人口動態

	2005年	2010年	2015年	2017年
出生数（人）	267	232	181	143
死亡数（人）	325	357	358	408
自然増減（人）	-58	-125	-177	-265
転入数（人）	904	780	681	686
転出数（人）	1,076	997	955	978
社会増減（人）	-172	-217	-274	-292
人口動態合計（人）	-230	-342	-451	-557

図 人口動態



【資料：岐阜県統計書】

4. 流出入人口

通勤・通学による流出・流入数は、流出が9,227人に対して流入5,628人となっており、3,599人の流出超過となっています。通勤・通学流動の流出先・流入元は、ともに大垣市が最も多くなっています。また、本町に住む通勤・通学者15,987人のうち本町内で通勤・通学する内々通勤・通学者は6,760人（42.3%）で、岐阜県の全市町村の平均値49.6%よりも低くなっています。

図 流出人口(2015年)

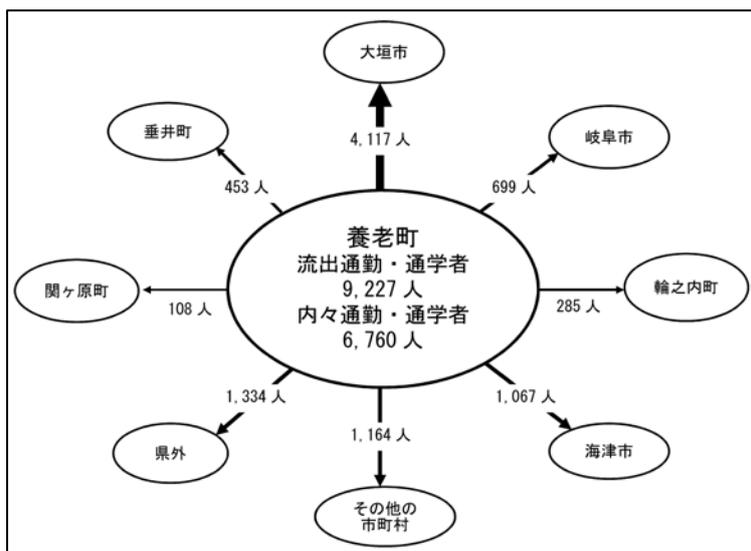
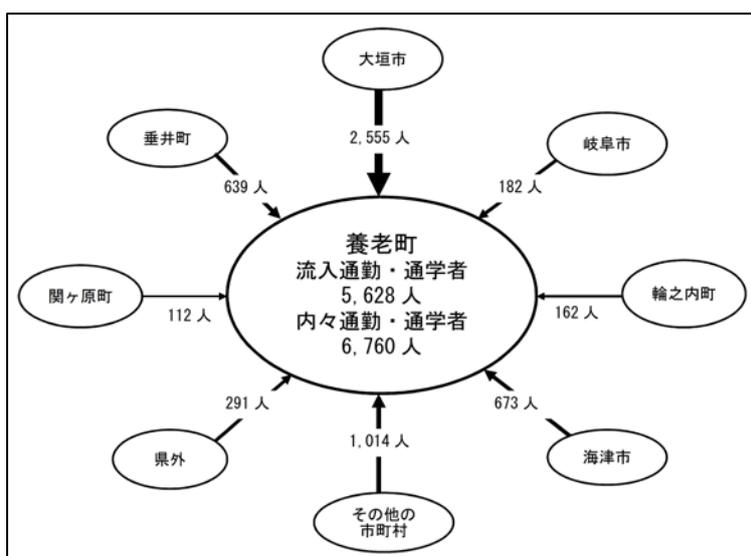


表 内々通勤・通学者割合(2015年)

県市町名	割合
養老町	42.3%
岐阜県(全市町村の平均値)	49.6%
大垣市	61.3%
海津市	49.9%
関ヶ原町	44.6%
垂井町	41.5%
輪之内町	33.6%

図 流入人口(2015年)



【資料：国勢調査】

2-4 土地利用及び建物利用

1. 土地利用現況

土地利用現況は、田・畑の農地や山林といった自然的土地利用が 77.4%を占めています。住宅用地や商業用地、工業用地といった宅地は 10.6%となっており、農地と自然が中心のまちであるといえます。

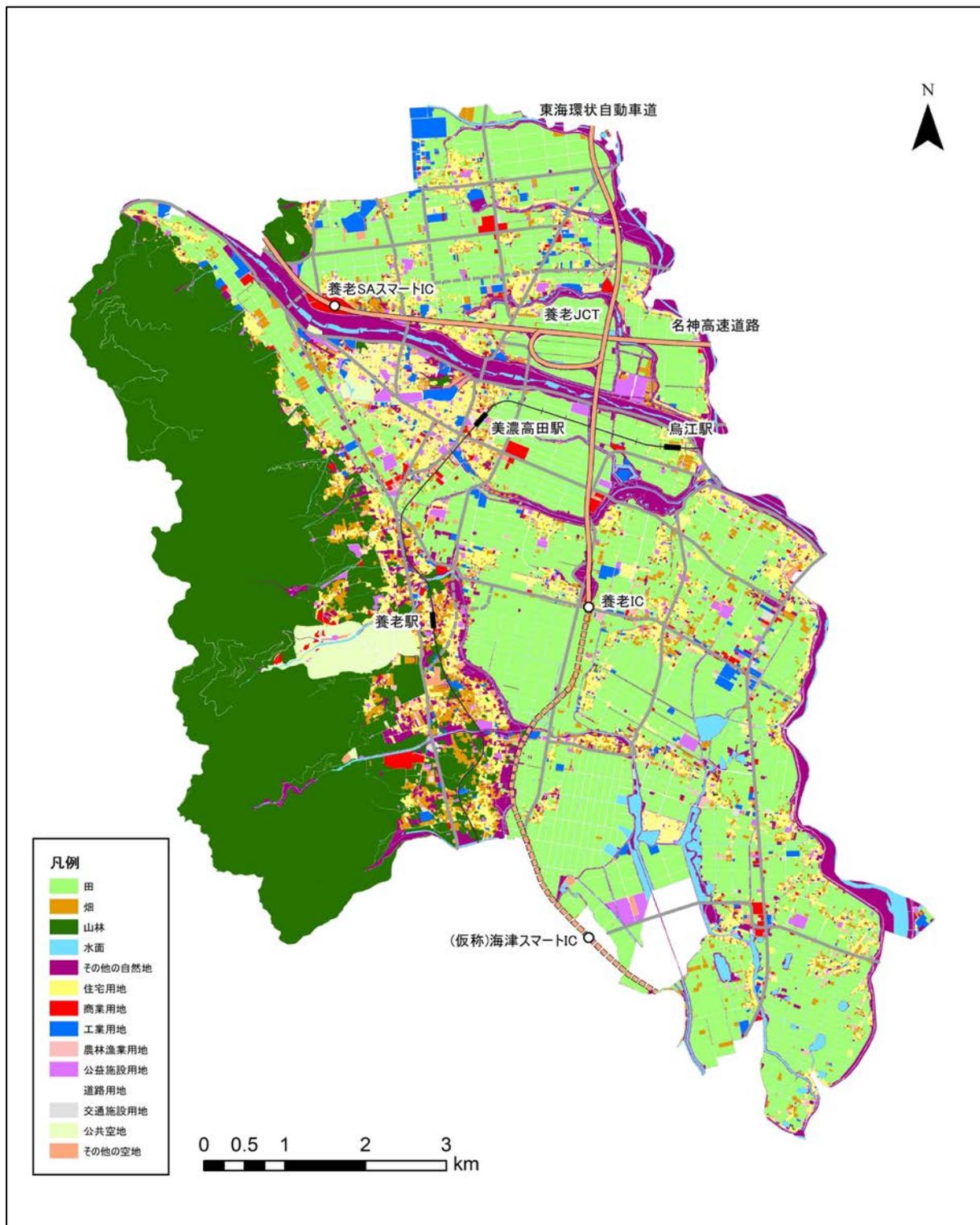
また、西部に養老山地の山林が広がり、高田地区を中心に住宅の集積がみられ、その他の地域はほとんどが田を主とする農地が広がっています。商業用地は一般国道 258 号や(主)南濃関ヶ原線・(一)養老赤坂線沿道に集積しています。工業用地は比較的大規模なものが点在しています。

表 土地利用現況

			面積 (ha)	構成比
自然的 土地 利用	農地	田	2,471	34.3%
		畑	311	4.3%
		小計	2,782	38.6%
	その他	山林	1,882	26.1%
		水面	248	3.4%
		その他自然地	671	9.3%
		小計	2,801	38.8%
	小計		5,583	77.4%
都市的 土地 利用	宅地	住宅用地	536	7.4%
		商業用地	77	1.1%
		工業用地	148	2.1%
		小計	761	10.6%
	その他	農林漁業施設用地	29	0.4%
		公益施設用地	119	1.7%
		道路用地	494	6.8%
		交通施設用地	34	0.5%
		公共空地	89	1.2%
		その他公的施設用地	0	0.0%
		その他の空地	103	1.4%
	小計		868	12.0%
	小計		1,629	22.6%
合計			7,212	100.0%
可住地			3,380	46.9%
非可住地			3,832	53.1%

【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

2. 建物利用現況

建物利用現況は、建物棟数で見ると、住宅が最も多く全体の74.7%を占めています。建築面積、延床面積も建物棟数と同様に住宅が大半を占めています。

また、工場は建物棟数が5.5%にも関わらず、建築面積では16.6%となっており、大規模な工場が立地していることが推測されます。

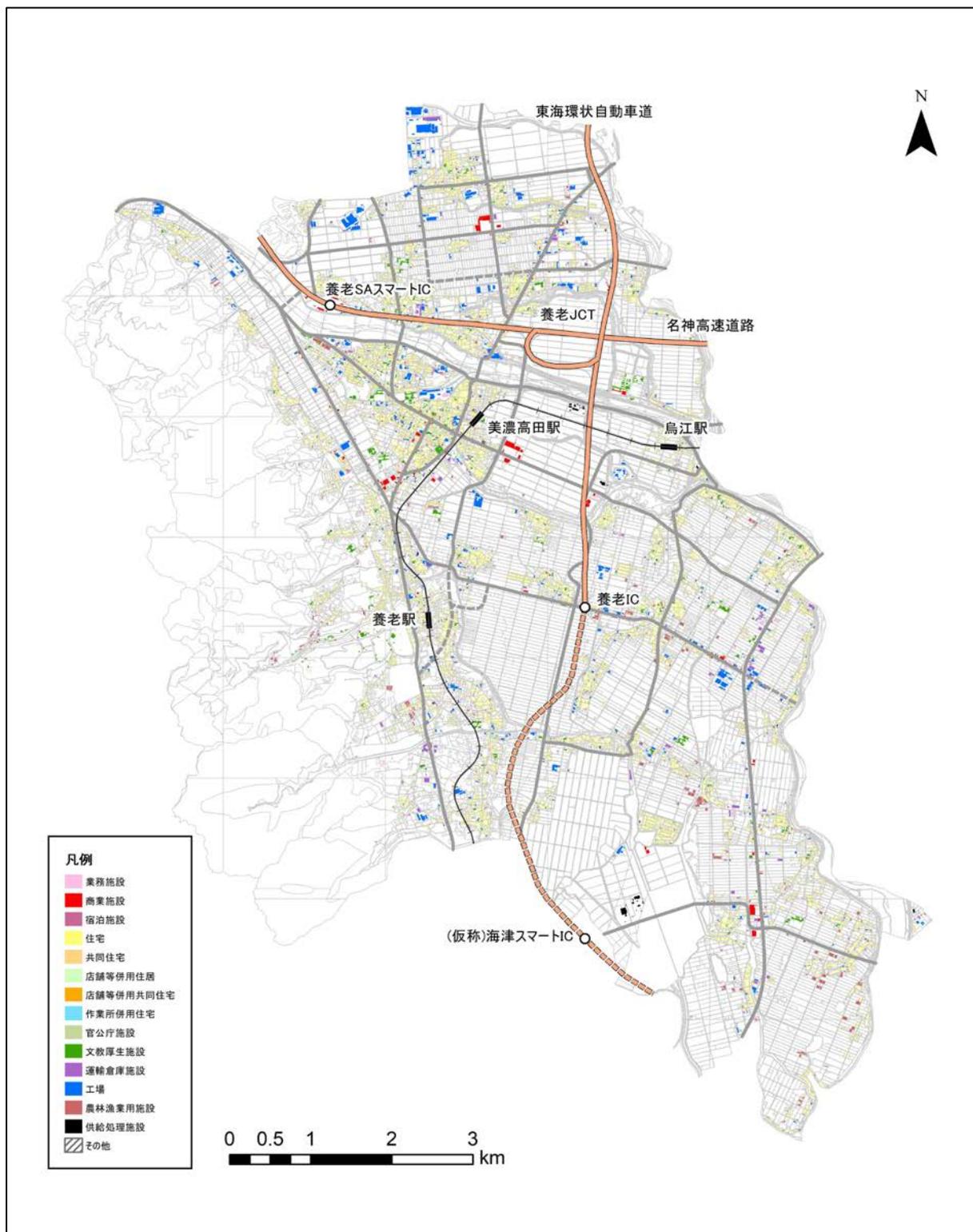
その他に、農林漁業用施設は916棟あり、農地と住宅地の境に広く分布しており、文教厚生施設は1,502棟あり、各地に点在しています。

表 建物利用現況

用途名	建物棟数（棟）		建築面積（㎡）		延床面積（㎡）	
		構成比		構成比		構成比
業務施設	377	1.5%	75,428	2.8%	112,315	2.9%
商業施設	434	1.7%	108,477	4.0%	127,246	3.3%
宿泊施設	49	0.2%	9,436	0.3%	20,489	0.5%
商業系用途複合施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
住宅	18,941	74.7%	1,455,021	53.5%	2,147,540	55.9%
共同住宅	166	0.7%	26,302	1.0%	56,600	1.5%
店舗等併用住宅	619	2.4%	66,852	2.5%	112,267	2.9%
店舗等併用共同住宅	5	0.0%	591	0.0%	1,373	0.0%
作業所併用住宅	59	0.2%	9,429	0.3%	13,856	0.4%
官公庁施設	39	0.2%	5,765	0.2%	13,538	0.4%
文教厚生施設	1,502	5.9%	208,330	7.7%	315,431	8.2%
運輸倉庫施設	675	2.7%	135,482	5.0%	166,010	4.3%
工場	1,399	5.5%	452,663	16.6%	544,019	14.2%
農林漁業用施設	916	3.6%	140,666	5.2%	151,753	3.9%
供給処理施設	158	0.6%	26,504	1.0%	58,546	1.5%
防衛施設	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	14	0.1%	1,090	0.0%	1,090	0.0%
合計	25,353	100.0%	2,722,036	100.0%	3,842,073	100.0%

【資料：都市計画基礎調査】

図 建物利用現況



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

2-5 産業構造

1. 産業別就業者数

本町の産業別就業者数は、2016年時点で第1次産業が273人、第2次産業が4,661人、第3次産業が6,248人となっています。

産業別の事業所数・従業者数を比較すると、第1次産業における事業所数と従業者数の推移はともに増加傾向にあります。第2次産業は、事業所数は緩やかに減少していますが、従業者数は2012年から増加傾向にあります。第3次産業は事業所数・従業者数ともに2006年から2009年にかけて増加しましたが、2012年には再び落ち込み、以降横ばいとなっています。

図 産業別事業所数・従業者数



表 産業大分類別事業所数・従業者数

	事業所数 (箇所)		従業者数 (人)	
		構成比		構成比
A~R 全産業(S公務を除く)	1,129	100.0%	11,182	100.0%
A~B 農林漁業	20	1.8%	273	2.4%
C 鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.1%	5	0.0%
D 建設業	155	13.7%	823	7.4%
E 製造業	183	16.2%	3,833	34.3%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-
G 情報通信業	4	0.4%	16	0.1%
H 運輸業、郵便業	33	2.9%	576	5.2%
I 卸売業、小売業	308	27.3%	2,216	19.8%
J 金融業、保険業	9	0.8%	139	1.2%
K 不動産業、物品賃貸業	11	1.0%	28	0.3%
L 学術研究、専門・技術サービス業	15	1.3%	44	0.4%
M 宿泊業、飲食サービス業	103	9.1%	896	8.0%
N 生活関連サービス業、娯楽業	77	6.8%	328	2.9%
O 教育、学習支援業	18	1.6%	53	0.5%
P 医療、福祉	68	6.0%	1,286	11.5%
Q 複合サービス事業	13	1.2%	108	1.0%
R サービス業(他に分類されないもの)	111	9.8%	558	5.0%

【資料：事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査】

2. 産業別状況

(1) 農業

本町の農家数は2005年から2015年にかけて10年間で895戸減少しています。経営耕地面積も同様に10年間で701ha減少しています。

図 農家数・経営耕地面積



※農家数とは、経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯又は10a未満であっても、調査期日1年間における農産物販売金額が15万円以上であった世帯で、農林業経営体調査で把握した農家の数のことです。

※経営耕地とは、農林経営体が経営している耕地で、以下の式で示されます。

$$\text{経営耕地} = \text{所有地(田、畑、樹園地)} - \text{貸付耕地} - \text{耕作放棄地} + \text{借入耕地}$$

【資料：農林業センサス】

(2) 工業

本町の工業事業所数は減少傾向にあり、2007年から2016年にかけて22箇所減少し、95事業所となっています。

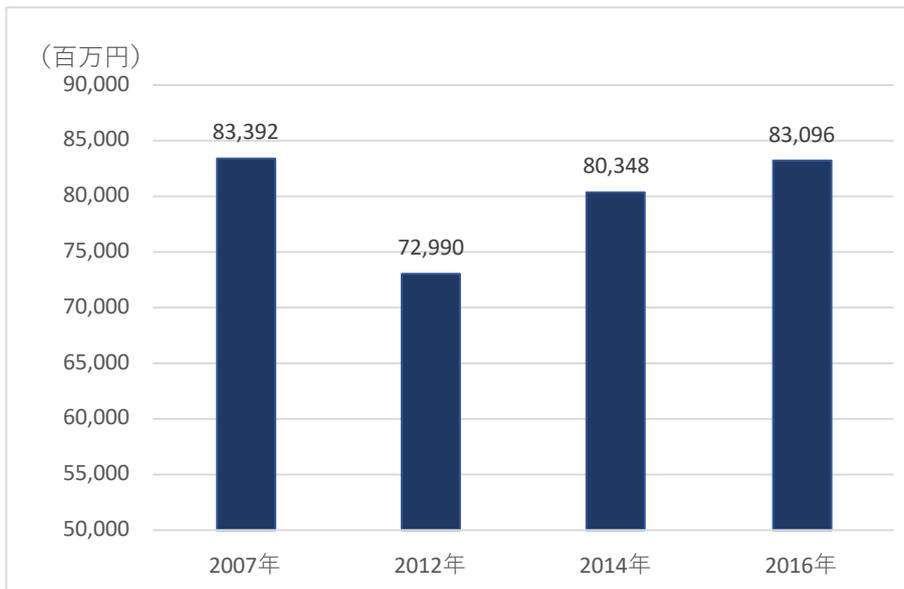
従業者数は、2014年まで減少傾向でしたが、2016年に356人増加して3,201人となっています。

製造品出荷額等は、2012年に減少しましたが以降増加し、2016年には83,096百万円となっています。

図 工業事業所数・従業者数



図 製造品出荷額等



【資料：工業統計調査、経済センサス活動調査】

(3) 商業

本町の商業事業所数は減少傾向にあり、2007年から2016年にかけて67箇所減少し、258事業所となっています。

従業者数は、2014年まで減少傾向でしたが、2016年に121人増加して1,793人となっています。

年間商品販売額は、2012年に減少しましたが以降増加し、2016年には65,090百万円となっています。

図 商業事業所数・従業者数

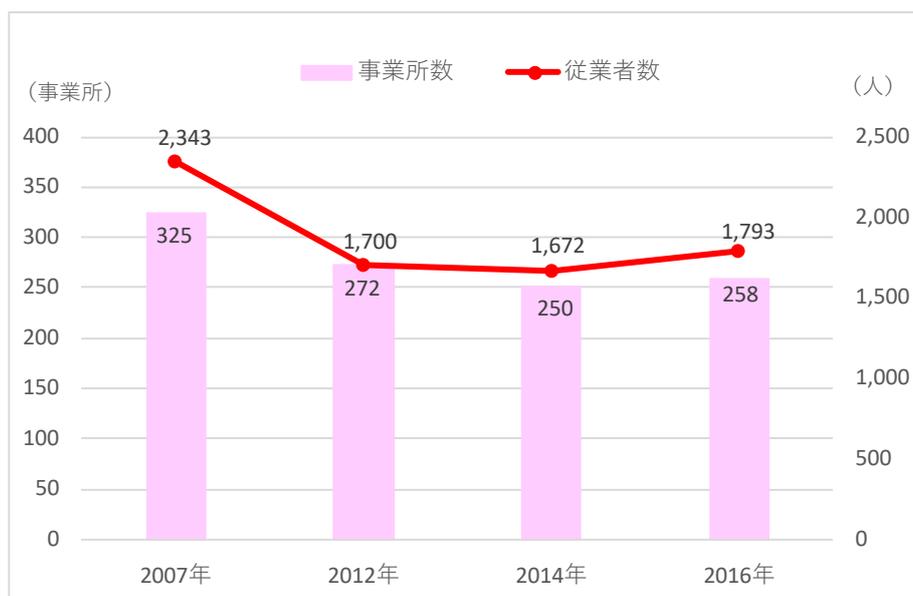
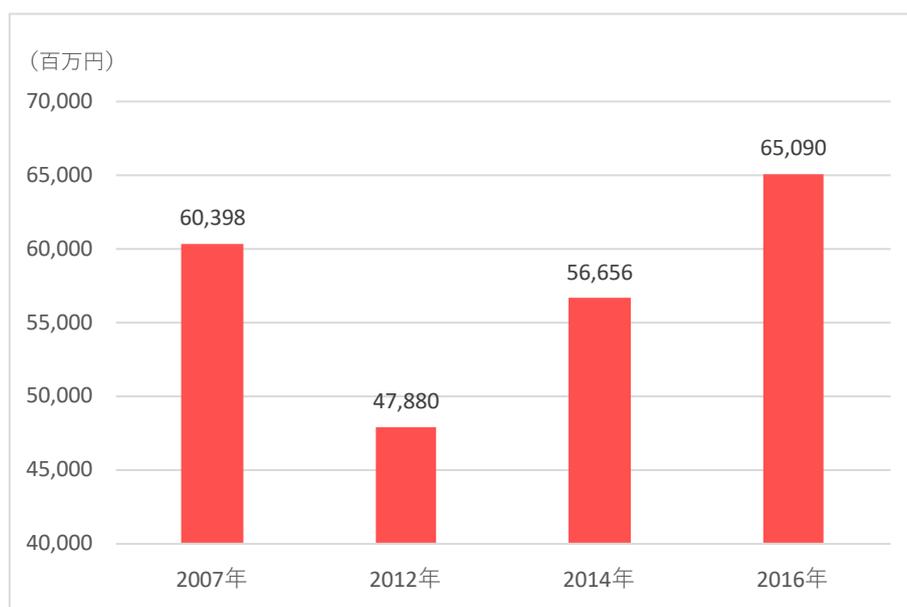


図 年間商品販売額



【資料：商業統計調査、経済センサス活動調査】

2-6 交通体系

1. 道路状況

(1) 道路網

本町における道路網は、一般国道 258 号・(主)大垣養老公園線・(主)南濃関ヶ原線・(一)養老平田線が骨格を形成し、(主)羽島養老線・(一)小倉烏江大垣線・(一)養老赤坂線などが集落を経由するように配置されています。

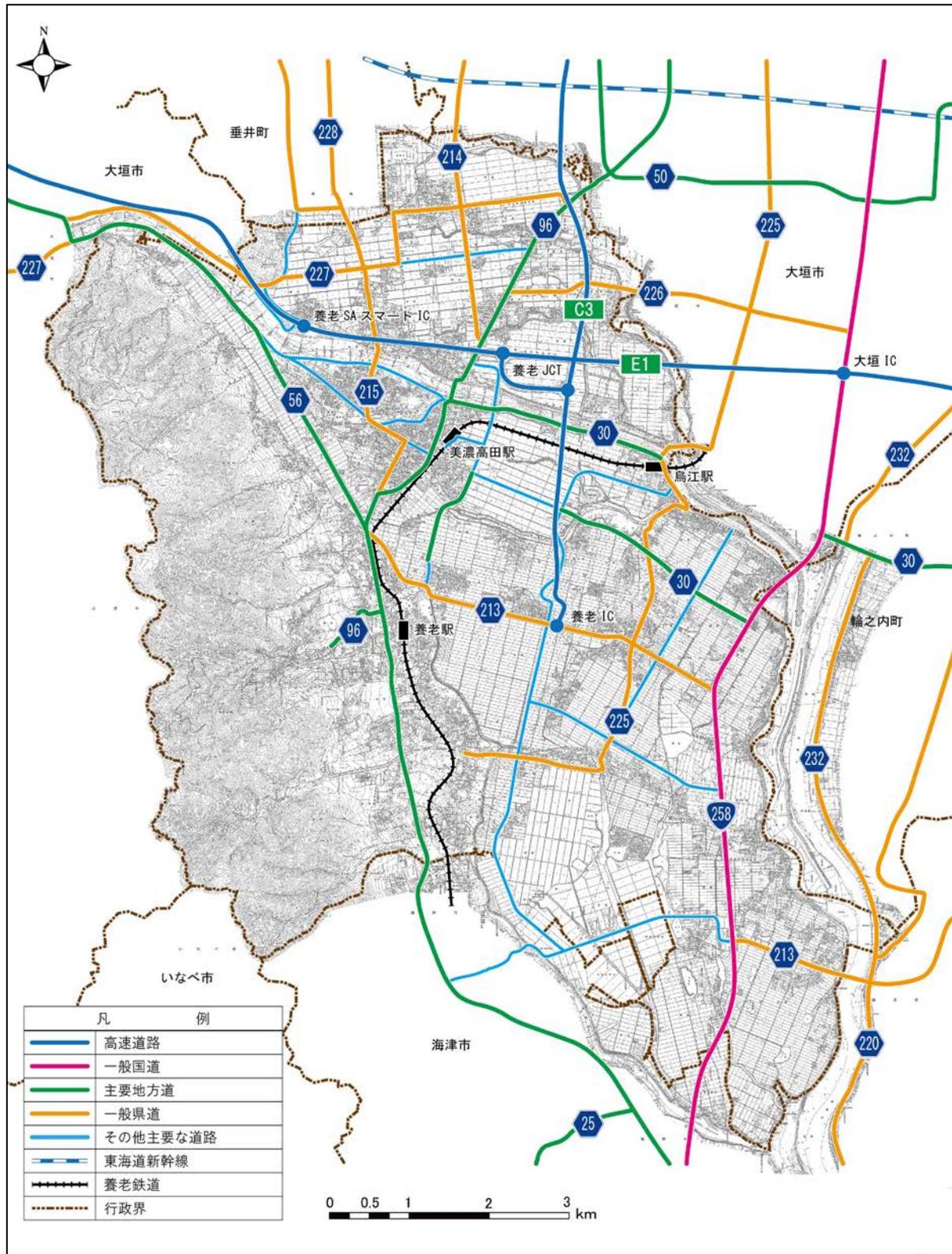
その他に、南北に東海環状自動車道が通っており、2017 年 10 月に養老 IC が開通しました。また、東西には名神高速道路が通っており、2018 年 6 月に養老 SA スマート IC が開通し、名神高速道路に直接アクセスできるようになりました。

表 主要道路網

種別	路線番号	路線名
高速自動車国道	E1	名神高速道路
	C3	東海環状自動車道
一般国道	258	一般国道258号
主要地方道	30	羽島養老線
	56	南濃関ヶ原線
	96	大垣養老公園線
一般県道	213	養老平田線
	214	養老赤坂線
	215	養老垂井線
	225	小倉烏江大垣線
	226	飯田島里線
	227	牧田室原線

【資料：道路交通センサス】

図 主要な道路交通網



【資料：道路交通センサス】

(2) 主要道路の交通量

本町の主要道路の交通量は、名神高速道路が最も多く、41,947台/日です。主要地方道では、(主)大垣養老公園線が14,020台/日と最も多くなっています。また、一般県道では、(一)牧田室原線が8,946台/日と最も多くなっています。

混雑度は、一般県道では1.0を超える区間が少ないですが、主要地方道では、全路線で1.0を超えています。

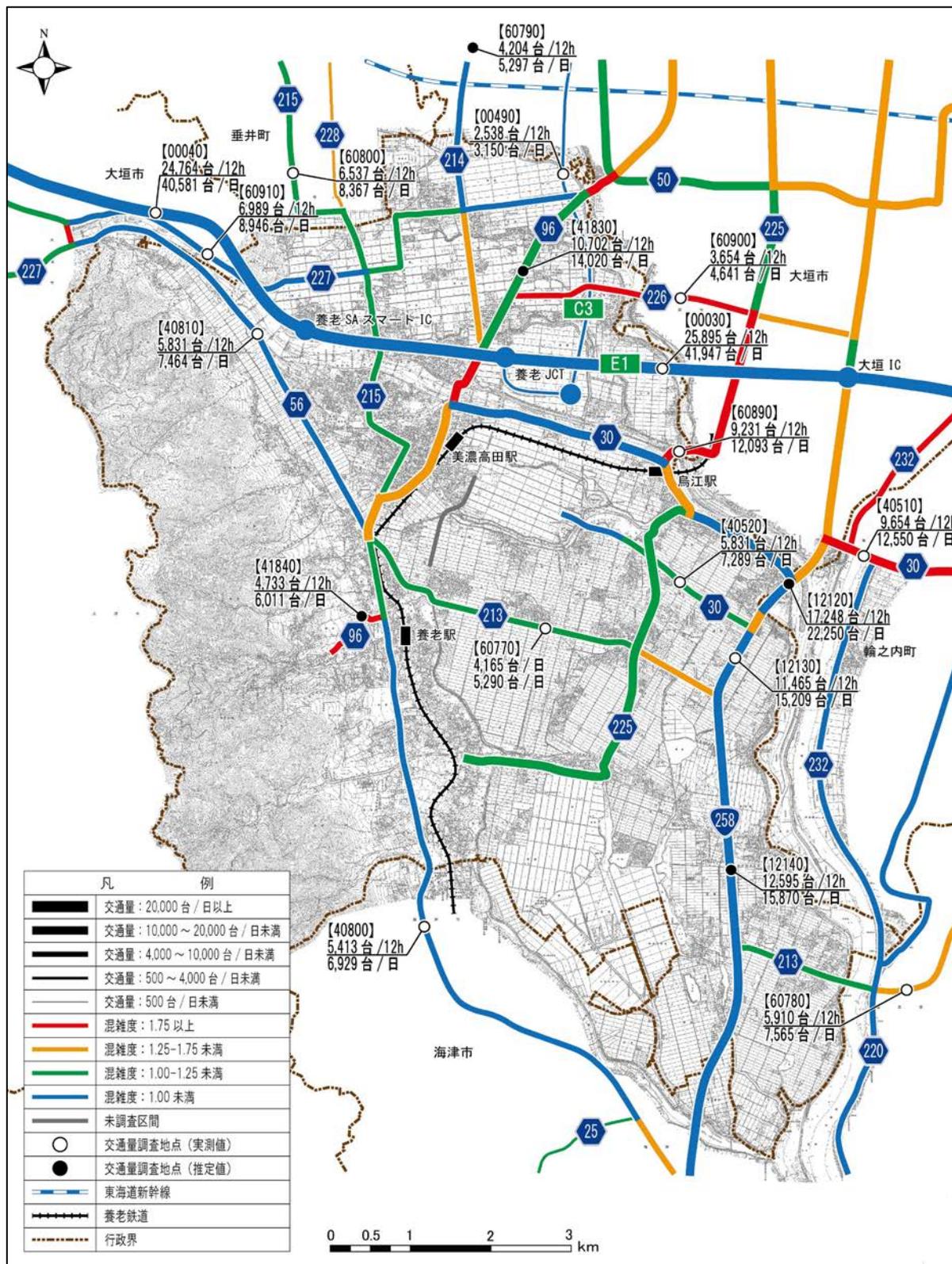
表 主要道路の交通量

路線名	平日昼間12時間 交通量(台)	平日24時間 交通量(台)	混雑度
名神高速道路【00030】	25,895	41,947	1.62
名神高速道路【00040】	24,764	40,581	1.64
東海環状自動車道【00490】	2,538	3,150	1.24
一般国道258号【12120】	17,248	22,250	1.29
一般国道258号【12130】	11,465	15,209	1.33
一般国道258号【12140】	12,595	15,870	1.26
(主)大垣養老公園線【41830】	10,702	14,020	1.31
(主)大垣養老公園線【41840】	4,733	6,011	1.27
(主)南濃関ヶ原線【40800】	5,413	6,929	1.28
(主)南濃関ヶ原線【40810】	5,831	7,464	1.28
(主)羽島養老線【40510】	9,654	12,550	1.3
(主)羽島養老線【40520】	5,831	7,289	1.25
(一)飯田島里線【60900】	3,654	4,641	0.32
(一)小倉烏江大垣線【60890】	9,231	12,093	3.87
(一)牧田室原線【60910】	6,989	8,946	0.92
(一)養老赤坂線【60790】	4,204	5,297	0.72
(一)養老垂井線【60800】	6,537	8,367	1.16
(一)養老平田線【60770】	4,165	5,290	0.47
(一)養老平田線【60780】	5,910	7,565	0.61

※ (一) 小倉烏江大垣線の混雑度が非常に高い理由として、大垣市内の交通量が本町内の狭隘な幅員区間で適用されているためであり、実態とは異なります。

【資料：道路交通センサス】

図 交通量調査地点



※【 】の数字は前頁の表の路線名を示しています。

【資料：道路交通センサス】

2. 公共交通機関の状況

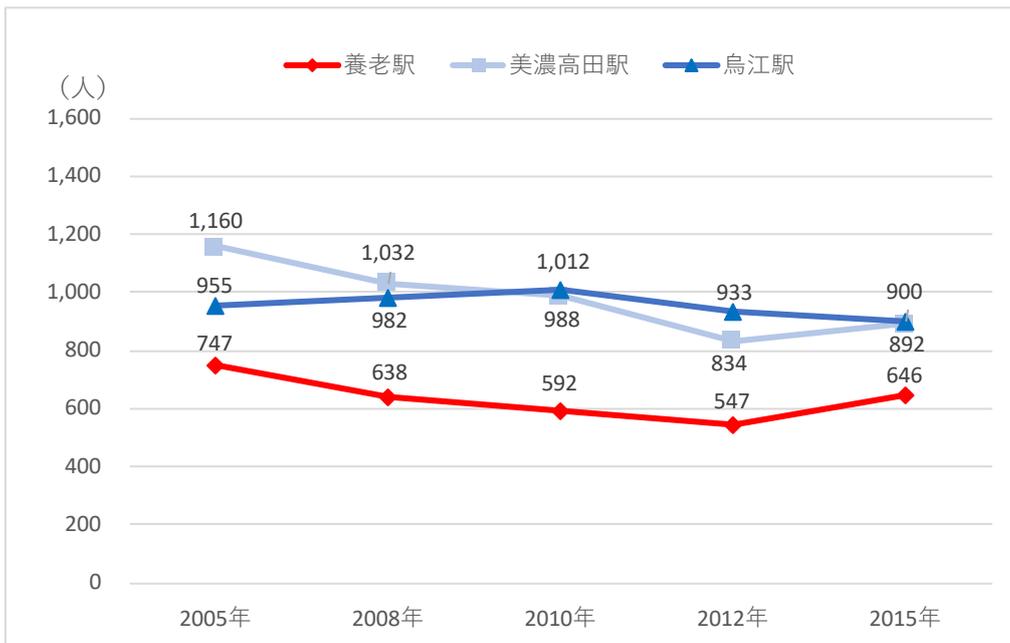
(1) 鉄道

本町には岐阜県揖斐川町と三重県桑名市を結ぶ養老鉄道が南北に通っており、町内に養老駅・美濃高田駅・烏江駅の3駅があります。1日あたりの乗降者数の推移は、養老駅と美濃高田駅では減少傾向にあり、それぞれ2005年から2015年にかけて101人、268人減少しています。また、烏江駅も2005年から2010年までは増加傾向にありましたが、2010年を境に減少しています。

表 1日あたりの養老鉄道乗降者数の推移

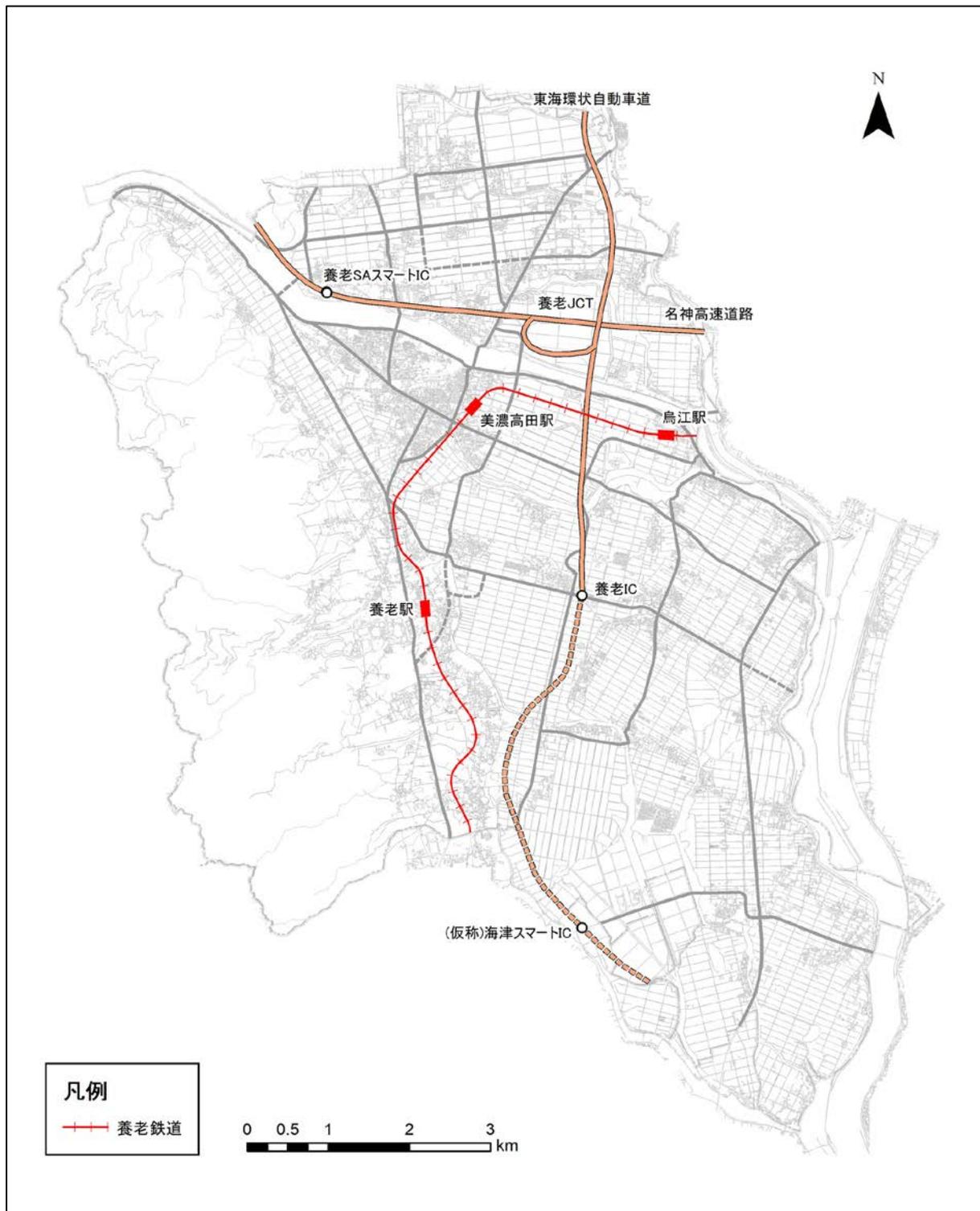
	2005年	2008年	2010年	2012年	2015年
養老駅（人）	747	638	592	547	646
美濃高田駅（人）	1,160	1,032	988	834	892
烏江駅（人）	955	982	1,012	933	900

図 1日あたりの養老鉄道乗降者数の推移



【資料：養老町統計書】

図 養老鉄道路線



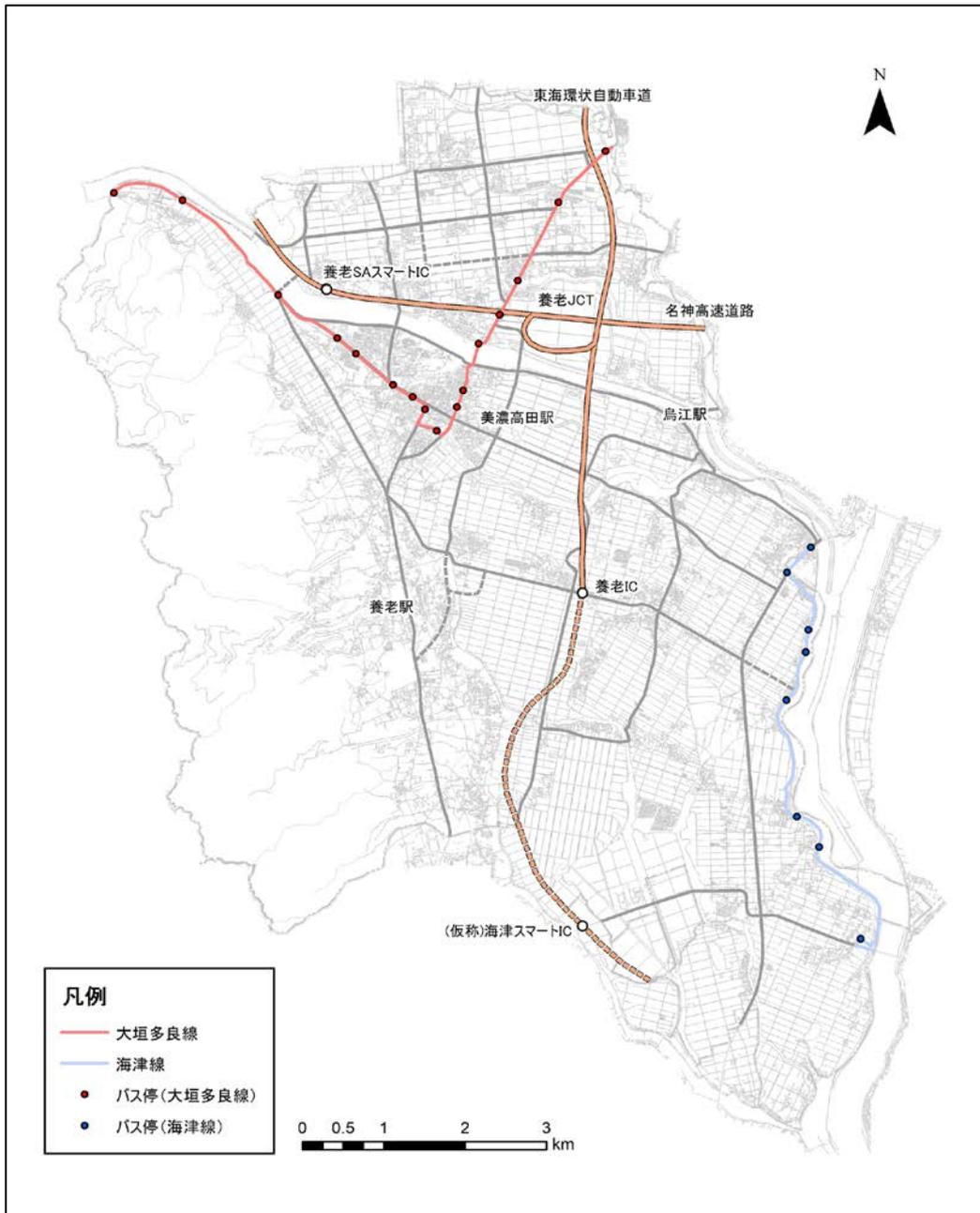
【資料：国土数値情報】

(2) バス

■路線バス

本町では、名阪近鉄バスにより運行されている路線バスが2路線（大垣多良線・海津線）あります。大垣多良線は、本町に15箇所の停留所があり、大垣駅前から本町の中心市街地を經由し、大垣市上石津へ接続しています。海津線は8箇所の停留所があり、大垣駅前から海津市役所へ接続しています。

図 名阪近鉄バス路線（2019年度）



※バス停「沢田」「船附（下り線）」の所在地は本町外ですが、本町の地名のため記載しています。
 ※今後、バス路線変更の可能性があります。

【資料：国土数値情報】

■ オンデマンドバス

本町では公共施設巡回バスが2012年に廃止され、同年11月よりオンデマンドバスを試験運行、2013年11月より本運行しています。オンデマンドバスでは、停留所が町内237箇所（町外7箇所）設置されており、公共交通空白地域を補完しています。

運行実績をみると、公共施設巡回バスは、2006年から2011年にかけて130人/日程度で推移していましたが、オンデマンドバス運行後、125人/日程度の乗降者数で推移しており、公共施設巡回バス運行時に比べ減少しています。

表 1日あたりの公共巡回バスの乗降者数

	2006年度	2008年度	2010年度	2011年度
乗降者数	143	144	146	129

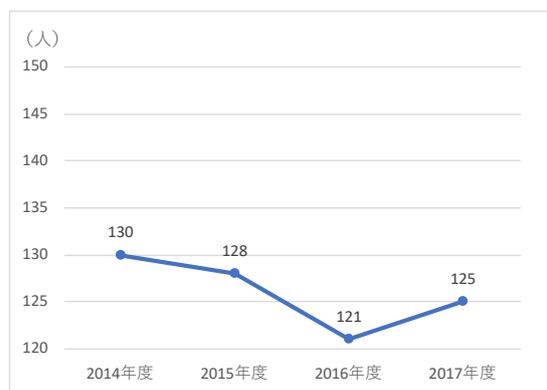
表 1日あたりのオンデマンドバスの乗降者数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
乗降者数	130	128	121	125

図 1日あたりの公共巡回バスの乗降者数



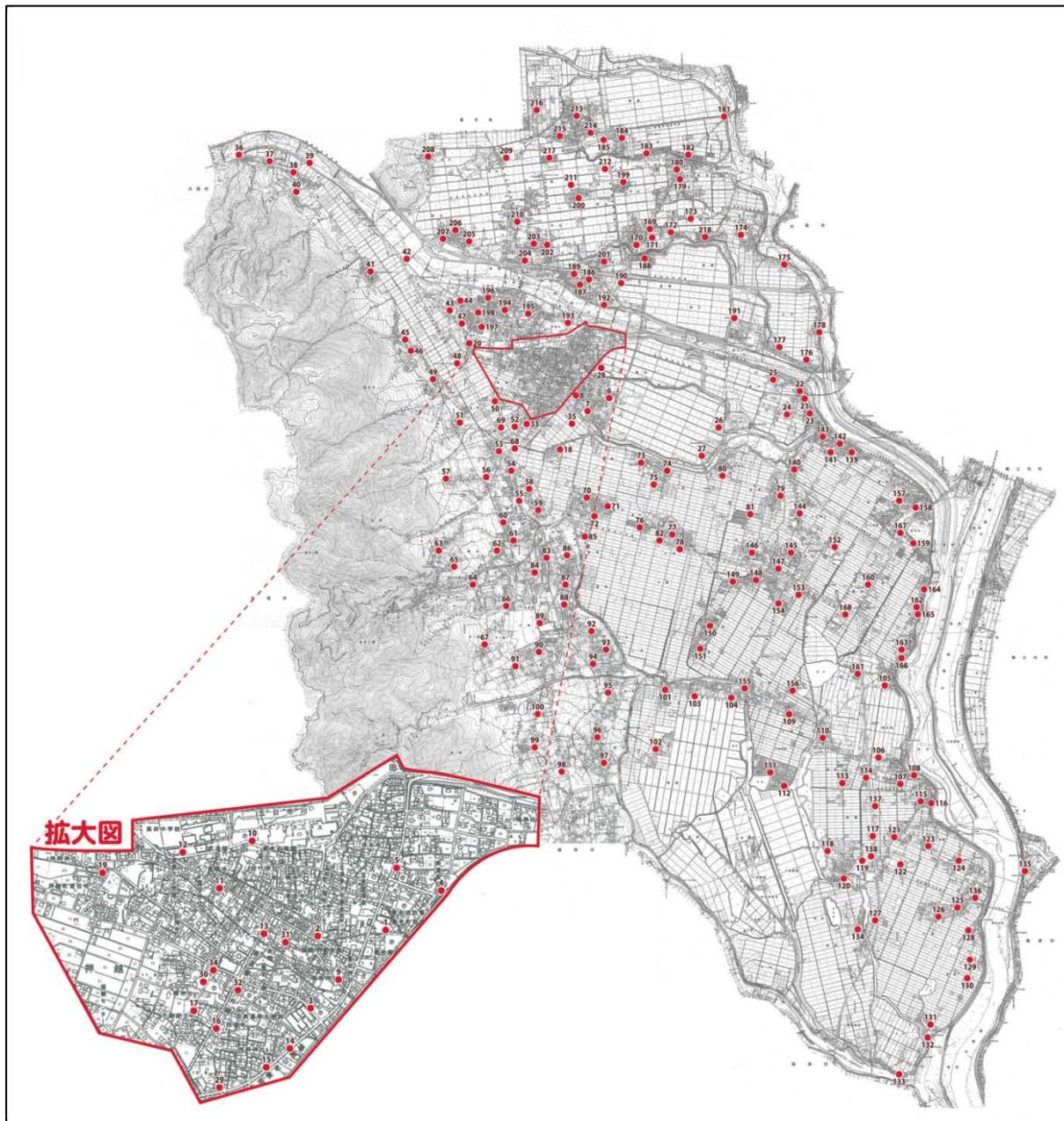
図 1日あたりのオンデマンドバスの乗降者数



※2013年のデータは11月から2014年3月までのデータとなるため記載していません。

【資料：養老町】

図 オンデマンドバス停留所



【資料：養老町】

2-7 市街化の状況と動向

1. DID の状況

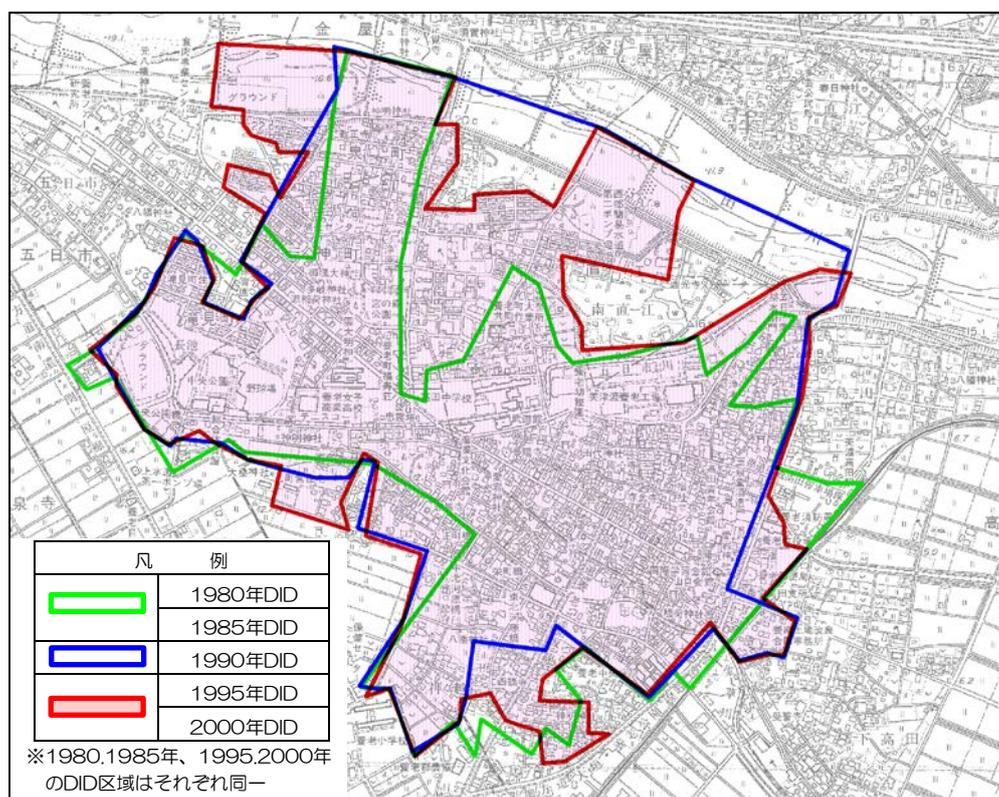
人口集中地区は減少の一途をたどり、2000年に、DID人口は5,108人、DID面積1.6km²、人口密度は3,173人/km²となり、2005年にはDIDの要件を満たさなくなったため、指定から外れています。

※DIDとは人口集中地区のことで、国勢調査の調査区を単位として、人口密度4,000人/km²以上で5,000人以上連なって人が住んでいる区域。

表 DIDの変遷

	人口(人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	町全域比	
				人口	面積
1980年	6,074	1.3	4,672.3	19.4%	1.8%
1985年	5,644	1.3	4,341.5	17.1%	1.8%
1990年	5,617	1.7	3,304.1	17.0%	2.4%
1995年	5,572	1.6	3,482.5	16.5%	2.2%
2000年	5,108	1.6	3,172.7	15.4%	2.2%
2005年	-	-	-	-	-
2010年	-	-	-	-	-
2015年	-	-	-	-	-

図 DIDの変遷



【資料：国勢調査】

2. 建築着工状況

本町の 2014 年から過去 10 年間における建築着工棟数は 1,221 棟で、町内の全建物棟数 25,353 棟に対して 4.8%とかなり低い割合となっています。また、そのほとんどが主要な道路の沿道に集積しています。

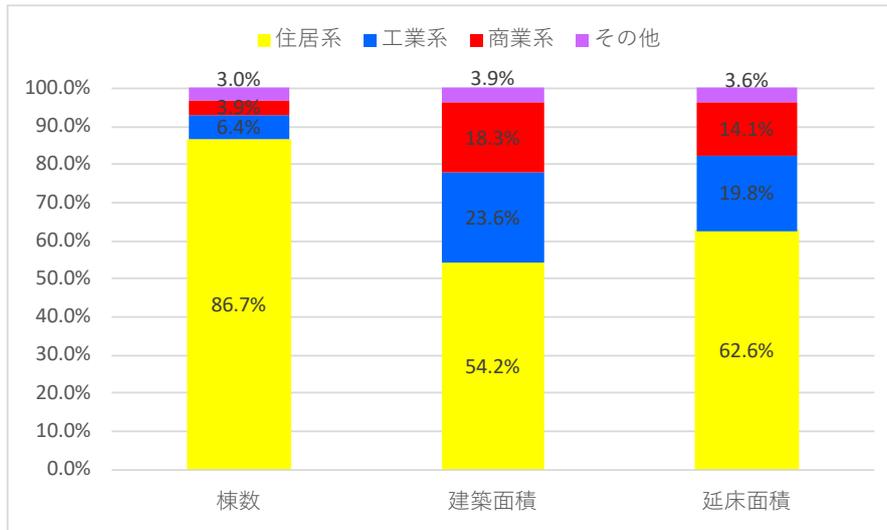
用途別に建物棟数をみると、住居系が 1,058 棟となっており、全体の 8 割以上を占めています。

また、建築面積と延べ床面積から、住居系では 1~2 階建の建物、工業系・商業系では 1 階建の建物が多いことがわかります。

表 建築着工状況

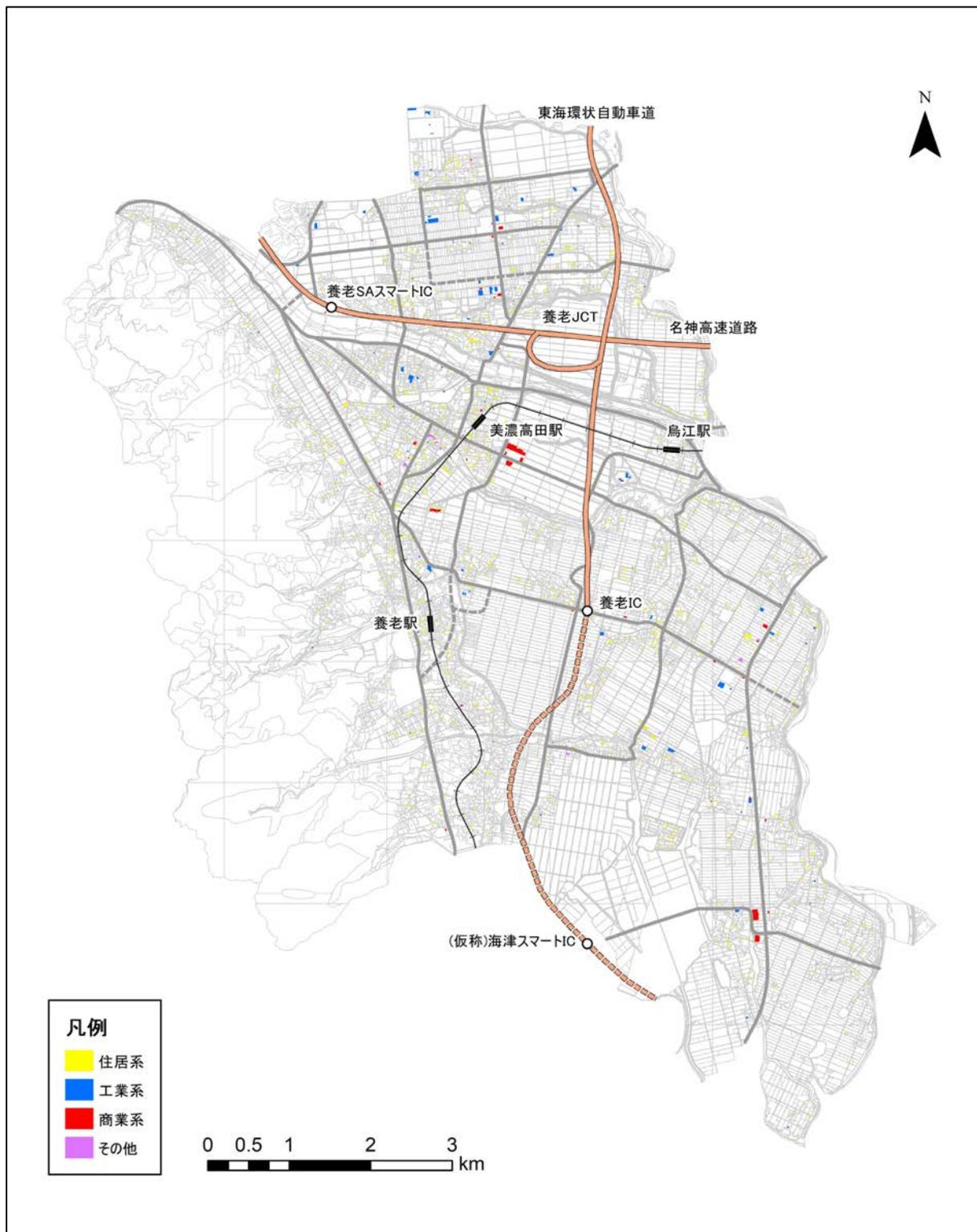
	住居系		工業系		商業系		その他		合計	
	棟数	構成比	棟数	構成比	棟数	構成比	棟数	構成比	棟数	構成比
棟数 (棟)	1,058	86.7%	78	6.4%	48	3.9%	37	3.0%	1,221	100%
建築面積 (㎡)	95,409	54.2%	41,521	23.6%	32,273	18.3%	6,783	3.9%	175,986	100%
延床面積 (㎡)	158,314	62.6%	49,987	19.8%	35,623	14.1%	9,054	3.6%	252,978	100%

図 新築建物の用途構成比



【資料：都市計画基礎調査】

図 建築着工の分布



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

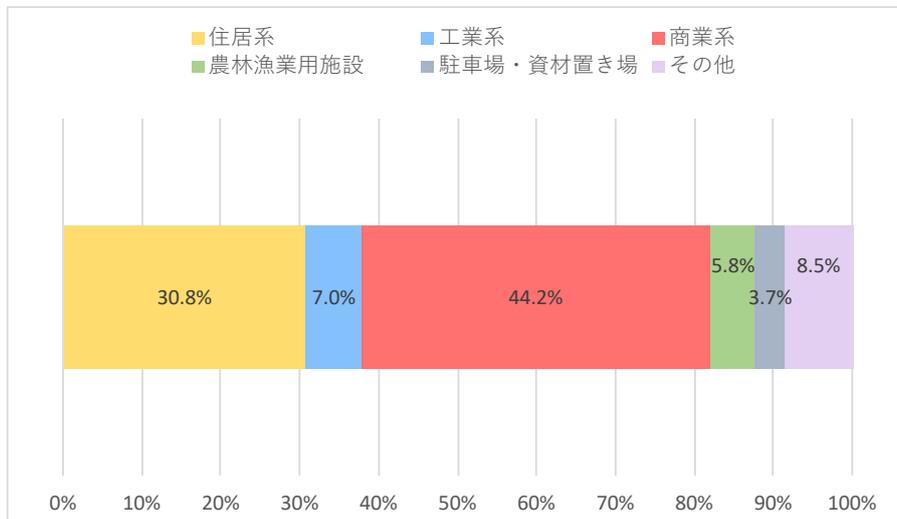
3. 農地転用状況

本町の2018年から過去3年間における農地転用は、商業系が145件で最も多く、その次に住居系が101件となっています。

表 農地転用状況

用途	転用目的	件数(件)	構成比
住居系	一般個人住宅	91	27.7%
	集合住宅等	3	0.9%
	農家住宅	6	1.8%
	分譲住宅	1	0.3%
	小計	101	30.8%
工業系	工・鉱業(工場)	7	2.1%
	鉱工業用地	12	3.7%
	流通業務等施設	4	1.2%
	小計	23	7.0%
商業系	商業サービス	141	43.0%
	店舗等施設	4	1.2%
	小計	145	44.2%
駐車場・資材置き場	駐車場・資材置き場	7	2.1%
	露天資材置場	3	0.9%
	露天駐車場	9	2.7%
	小計	19	5.8%
農林漁業用施設	農林漁業用施設	12	3.7%
	小計	12	3.7%
その他	その他サービス	2	0.6%
	官公署・病院等	1	0.3%
	個人農林業施設	1	0.3%
	進入路	6	1.8%
	太陽光発電	18	5.5%
	小計	28	8.5%
合計		328	100.0%

図 農地転用目的の構成比



【資料：養老町】

4. 開発状況

本町の過去の開発状況をみると、本町北部で1955年に多芸、1980年に御所馬場地区、2008年に島田で宅地造成が完了しました。

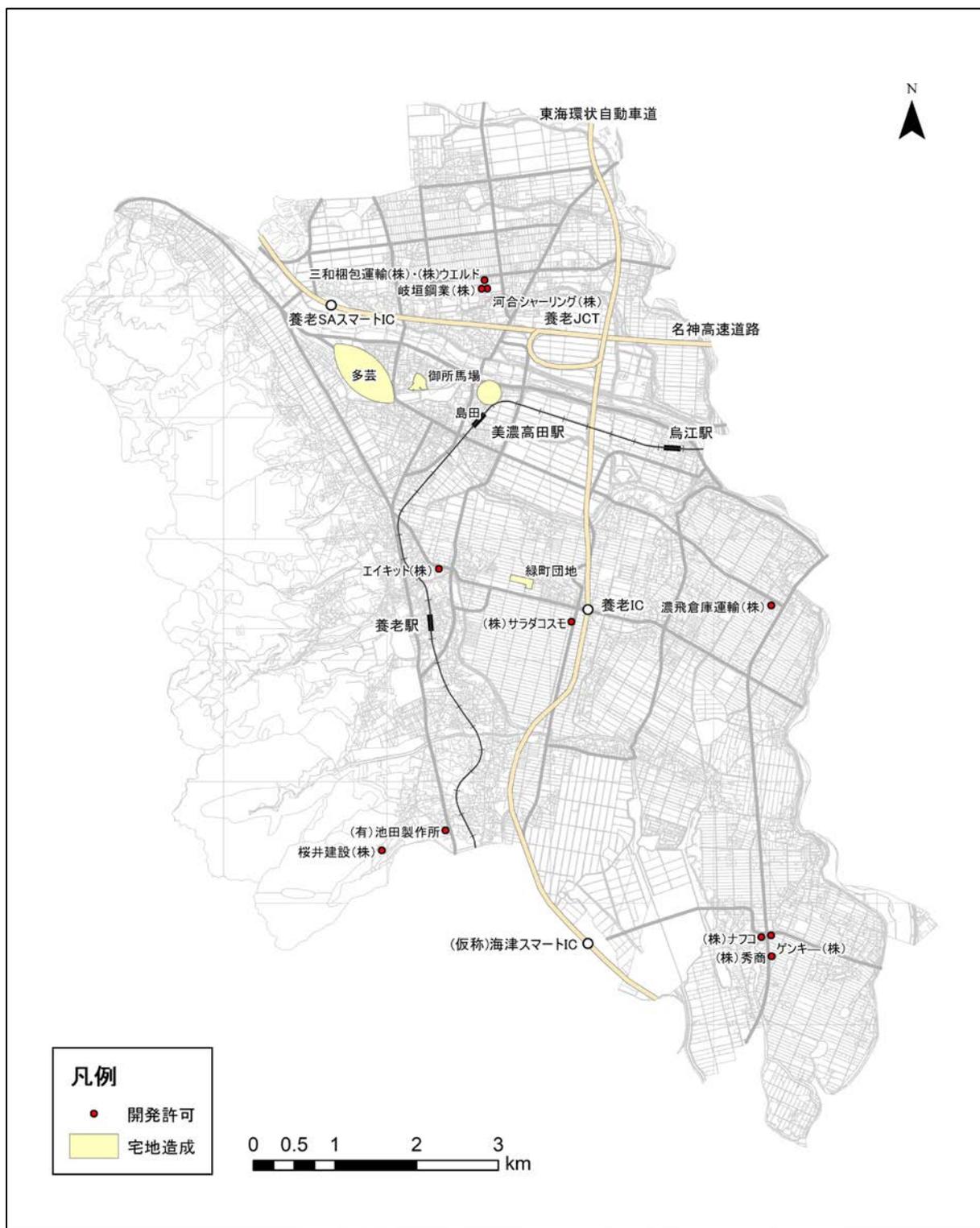
開発許可によるものは2009年から2017年にかけて、工業・商業用途をはじめとした開発が11件あります。

表 宅地等の開発状況

事業期間（年）		位置・名称	主な用途	面積 (㎡)
開始	完了			
1951	1955	多芸	宅地造成	169,000
1971	不明	緑町団地	宅地造成	24,000
1977	1980	御所馬場	宅地造成	280,000
1999	2008	島田	宅地造成	39,200
2009	2015	河合シャーリング（株）	工業用（鋼材加工工場の建設）	5,236
2011	2012	桜井建設（株）	工業用（植林及び埋立て）	17,973
2012	2012	（株）ナフコ	商業用（店舗）	13,007
2012	2012	岐垣鋼業（株）	工業用（鋼材加工工場の建設）	7,215
2013	2018	エイキット（株）	飲食店、物品販売店、公衆浴場、旅館 及び診療所	17,120
2014	2014	濃飛倉庫運輸（株）	商業用（営業倉庫・トラックターミナル 及び事務所1棟の建設）	21,269
2014	2016	（有）池田製作所	工場及び事務所<自動車部品製造>	11,523
2015	2017	（株）秀商	ポートルースチケットショップ	7,713
2015	2020	（株）サラダコスモ	野菜生産施設（飲食店、店舗含む）	60,653
2016	2018	ゲンキー（株）	物品販売店舗	5,232
2017	2018	三和梱包運輸（株） （株）ウエルド	工場（鋼製製品製造加工）・倉庫	7,738

【資料：都市計画基礎調査、養老町】

図 宅地等の開発状況



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

2-8 都市施設整備状況

1. 都市計画道路

本町の都市計画道路は、5路線となっており、未着手部分がある路線は(都)養老インター線・(都)高田石畑線・(都)高田五日市線の3路線です。

表 都市計画道路

路線番号	路線名	幅員 (m)	総延長 (m)	改良済 (m)	構成済 (m)	整備中 (m)	未着手 (m)	改良率
1・3・1	東海環状自動車道	23.5	10,030	6,080	0	3,950	0	60.6%
3・3・3	一般国道258号	22	1,700	1,700	0	0	0	100.0%
3・4・4	養老インター線	18	2,280	0	0	0	2,280	0.0%
3・6・1	高田石畑線	11	1,520	0	780	0	740	0.0%
3・6・2	高田五日市線	10	2,060	1,240	0	0	820	60.2%
合 計			17,590	9,020	780	3,950	3,840	51.3%

【資料：都市計画基礎調査、養老町】

2. 公園・緑地

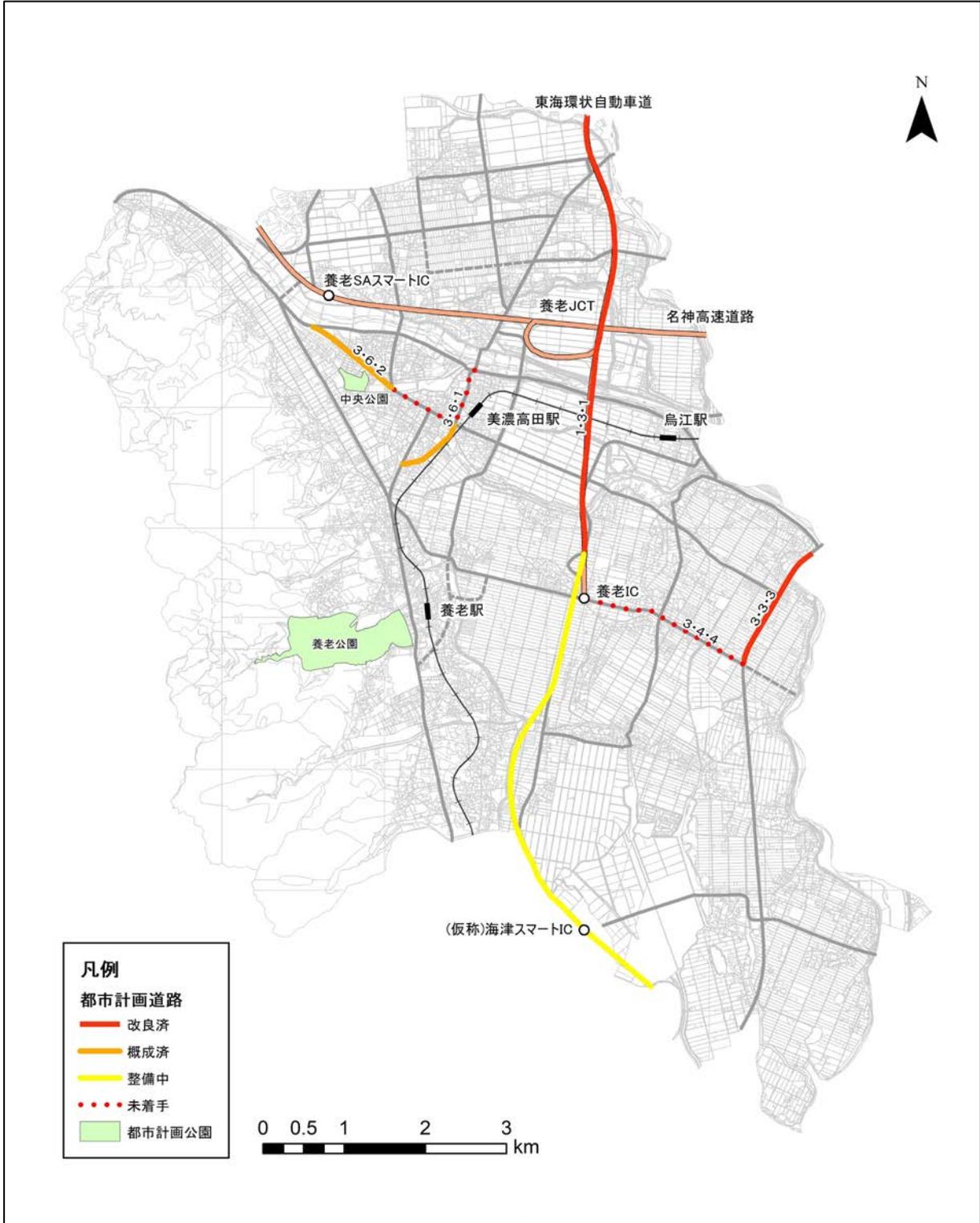
本町には都市計画公園が2箇所あり、本町の中西部に位置する養老公園と高田地区に位置する中央公園となっています。

表 都市計画公園

種別	名称	面積 (ha)
広域公園	養老公園	78.6
地区公園	中央公園	6.2

【資料：都市計画基礎調査】

図 都市計画道路及び都市計画公園の配置状況



※数字は前頁の表の路線番号を示しています。

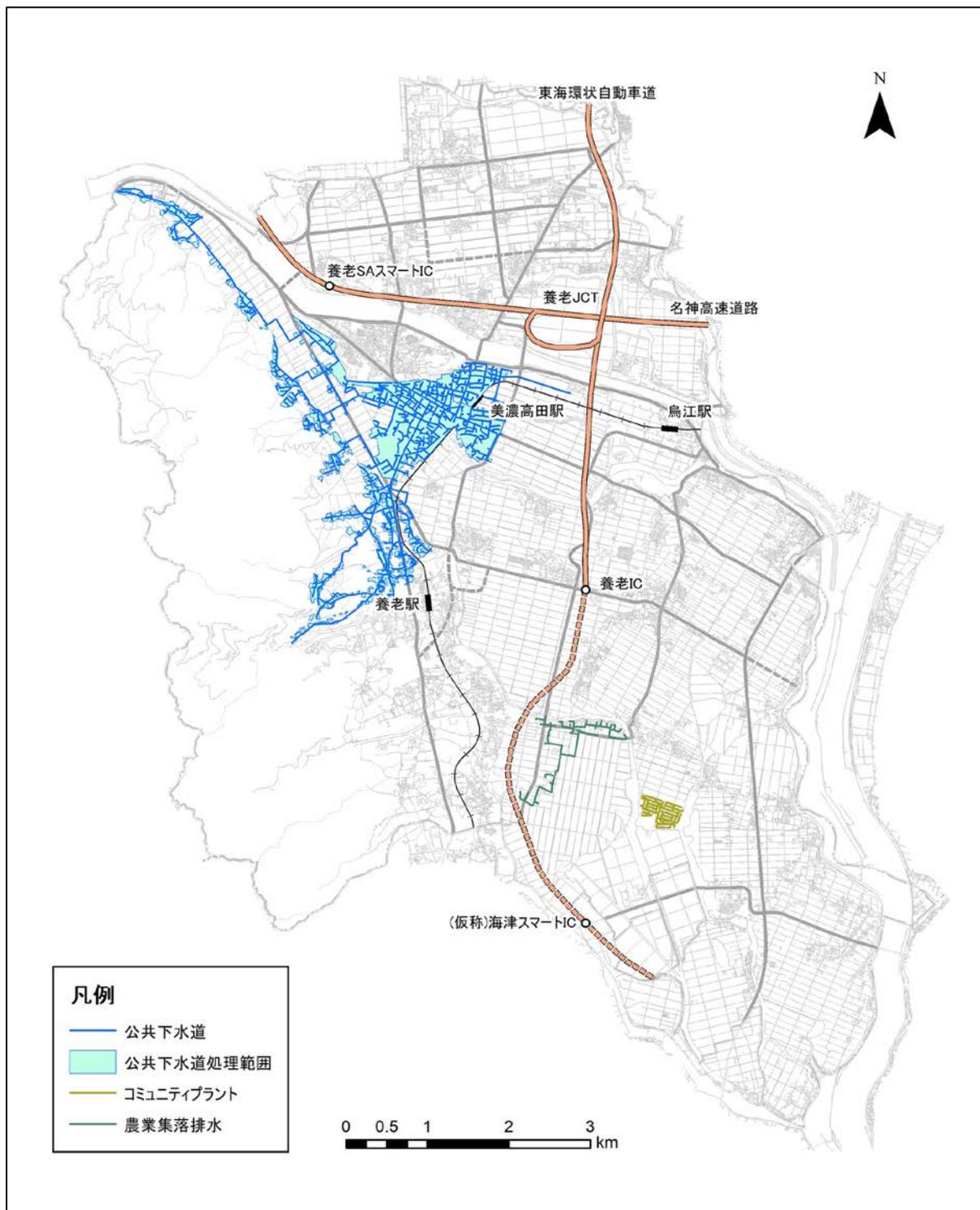
※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

3. 下水道

本町の下水道は、公共下水道の他に、コミュニティ・プラントと農業集落排水があります。公共下水道は、美濃高田駅周辺などの市街地を処理範囲としています。

図 下水道の管渠の配管状況



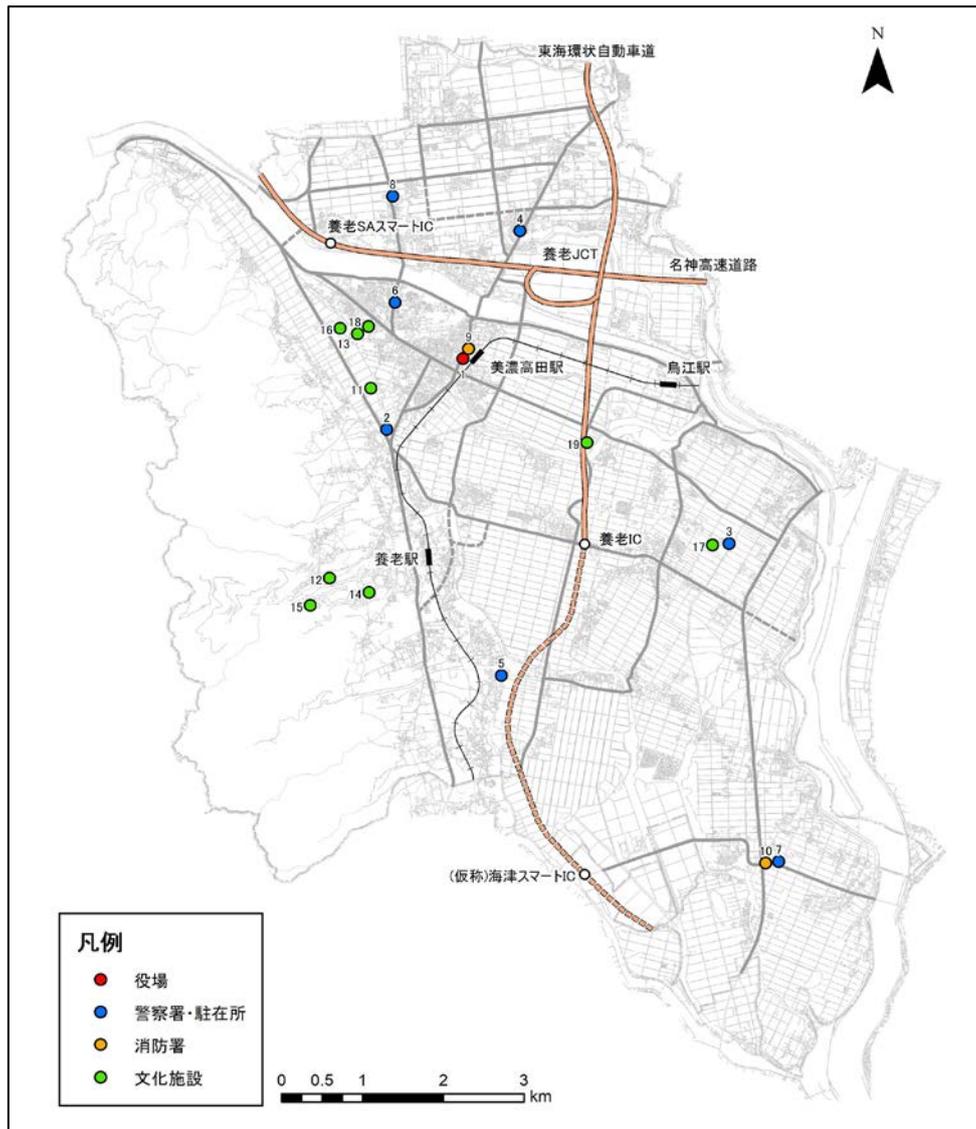
【資料：養老町】

4. その他公共公益施設

■行政・文化施設

本町の役場、消防署が高田地区に位置しています。また、総合体育館、スポーツプラザなどの文化施設は高田地区に4箇所、南西の養老公園付近に4箇所となっており、一部の地域に集中しています。その他に、警察署は駐在所を含めて町内に7箇所あり、町内各地に点在しています。

図 行政・文化施設の配置状況



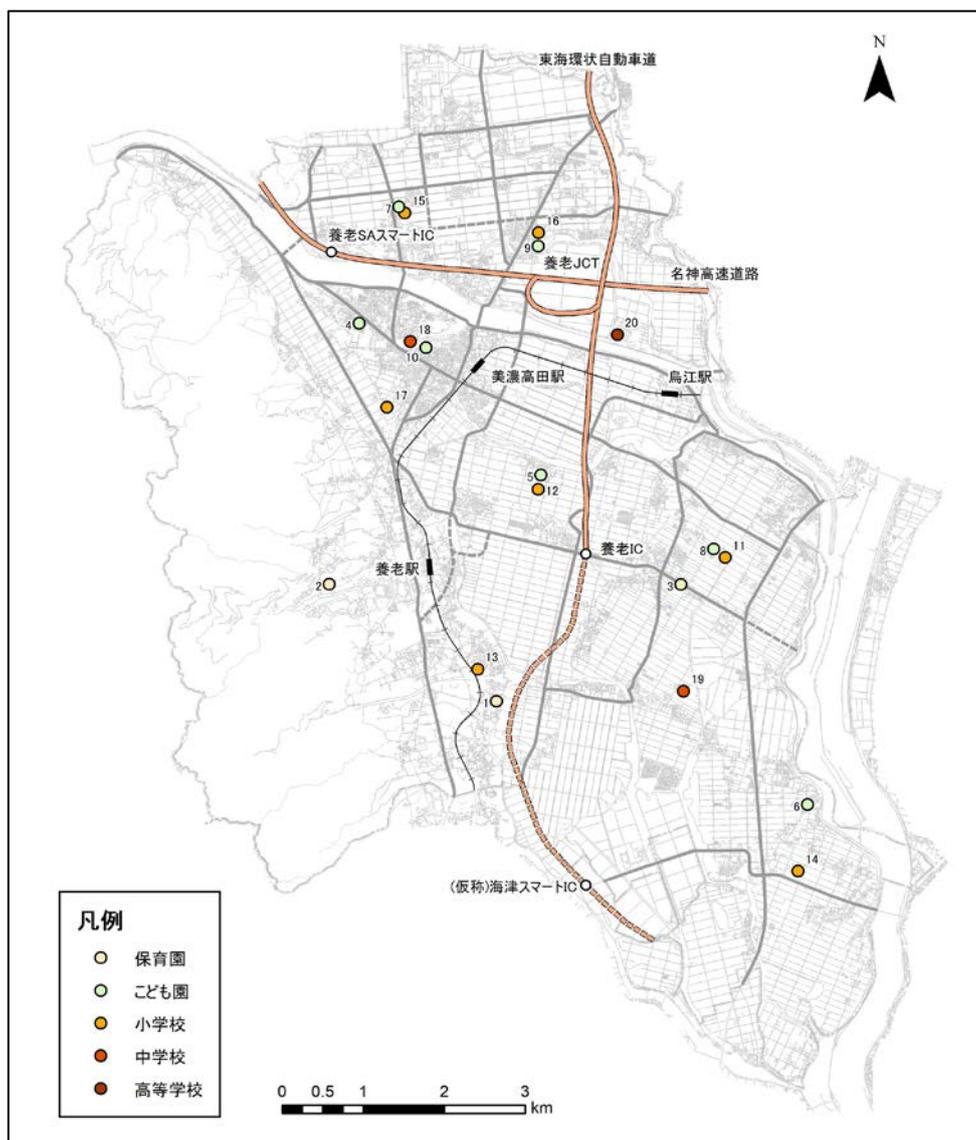
番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	養老町役場	8	養老警察署日吉駐在所	14	養老公園テニスコート
2	養老警察署	9	養老消防署	15	養老キャンプセンター
3	養老警察署笠郷駐在所	10	養老消防署南部分署	16	養老町スマイルグラウンド
4	養老警察署小畑駐在所	11	養老町中央公民館・町民会館	17	養老町営笠郷テニスコート
5	養老警察署上多度駐在所	12	親孝行のふるさと会館	18	養老町中央公園野球場
6	養老警察署多芸駐在所	13	養老町総合体育館	19	スポーツプラザ養老
7	養老警察署池辺駐在所				

【資料：国土数値情報】

■子育て・教育施設

本町には保育園・こども園が10箇所、小学校が7箇所、中学校が2箇所、高等学校が1箇所あり、各地に点在しています。

図 子育て・教育施設の配置状況



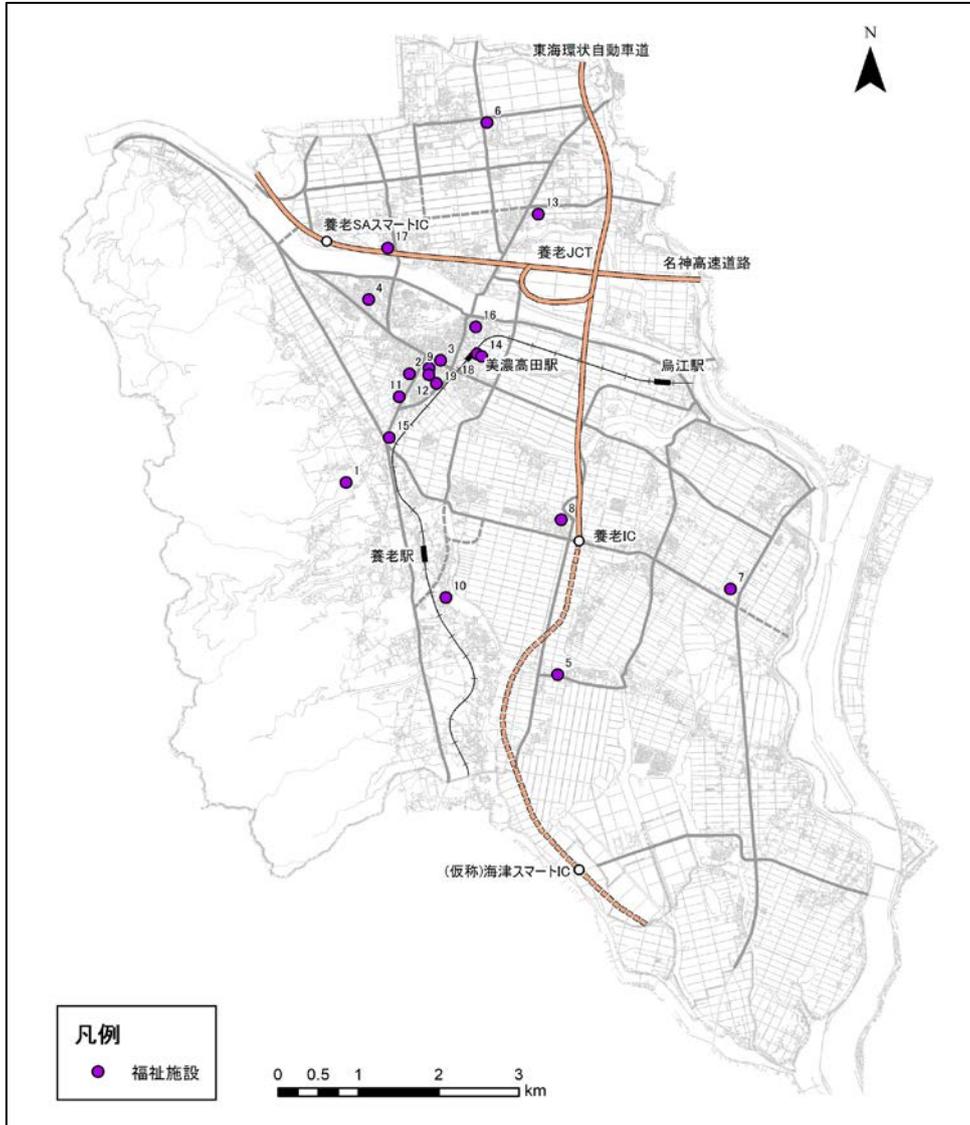
番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	めぐみ保育園	8	船附こども園	15	日吉小学校
2	ようろう保育園	9	養北こども園	16	養北小学校
3	下笠保育園	10	養老こども園	17	養老小学校
4	こばとこども園	11	笠郷小学校	18	高田中学校
5	広幡こども園	12	広幡小学校	19	東部中学校
6	池辺こども園	13	上多度小学校	20	大垣養老高等学校
7	日吉こども園	14	池辺小学校		

【資料：国土数値情報】

■ 福祉施設

本町の福祉施設は 18 箇所あり、その約半数が高田地区に集中しています。

図 福祉施設の配置状況



番号	名称	番号	名称
1	白鶴荘/特別養護老人ホーム白鶴荘/ 白鶴荘デイサービスセンター/白鶴ヘルパーステーション	11	デイサービスセンター養老福寿苑/ ショートステイ養老福寿苑
2	養老長屋/養老の郷/ショートステイ養老長屋	12	山口デイサービスセンター
3	養老町老人福祉センター	13	そよかぜ飯田教室
4	養老町老人福祉センター福寿荘	14	養老町福祉作業所/そよかぜ高田教室
5	こすもすデイサービスセンター	15	ショートにしみの
6	たかのデイサービスセンター	16	養老ショートステイ
7	デイサービス・柚子養老/ショートステイ・柚子養老	17	特定非営利活動法人ハウス希望
8	デイサービスかがやき	18	れんげの家
9	デイサービスセンター幸の郷	19	西美濃厚生病院
10	デイサービス空		

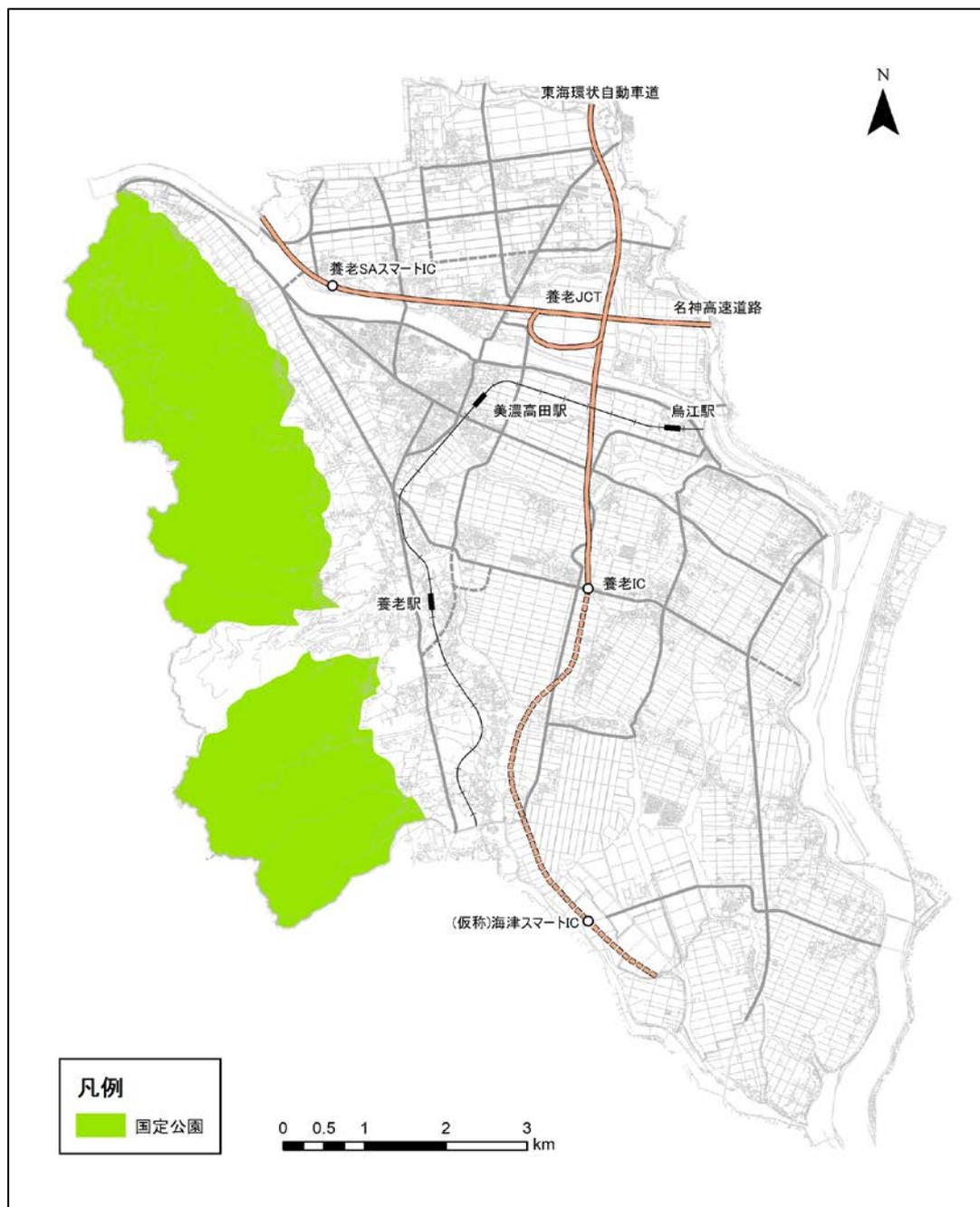
【資料：国土数値情報】

2-9 関連法規制状況

1. 国定公園

本町の西側の養老山地に、揖斐関ヶ原養老国定公園が位置しています。揖斐関ヶ原養老国定公園の総面積は20,219ha（うち特別地域18,313ha）で、岐阜県の中で最も大きい国定公園となっています。

図 揖斐関ヶ原養老国定公園



【資料：国土数値情報】

2. 農振・農用地

本町の農業振興地域の面積は 5,173ha となっており、町の約 72%を占めています。また、農業地区域内農地は 2,168ha となっており、養老山地の麓と高田地区を除く平野部の大半が農用地区域内農地となっています。

表 農業振興地域・農用地区域内農地・農業用施設用地

	面積(ha)
農業振興地域	5,173
農用地区域内農地	2,168
農業用施設用地	6

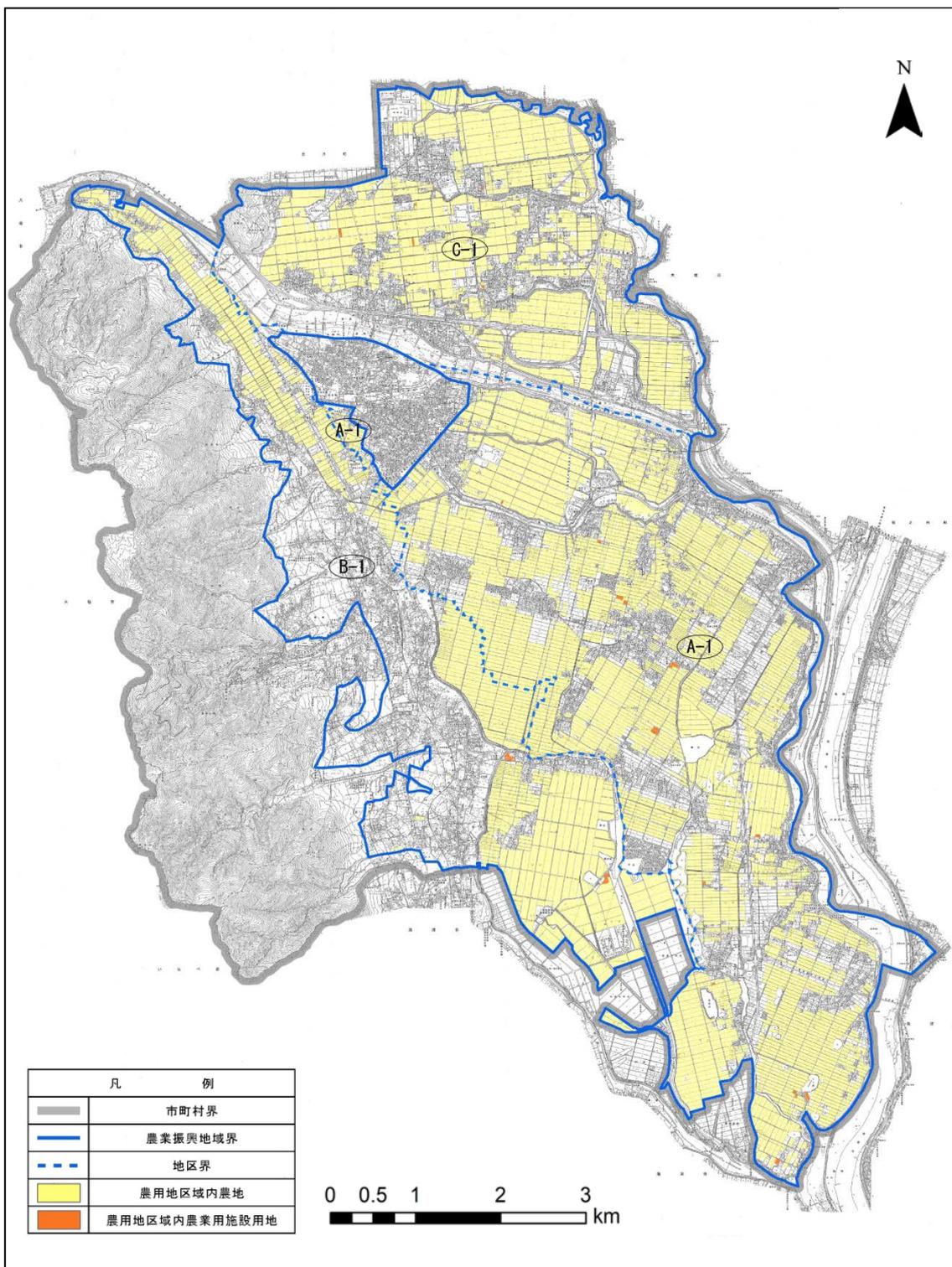
表 地域別農用地区域内農地・農業用施設用地

	面積 (ha)			合計(ha)
	A-1	B-1	C-1	
農用地区域内農地	1,185	447	536	2,168
農業用施設用地	4	1	1	6

※A-1：高田、広幡、池辺、笠郷地域
 B-1：養老、上多度地域
 C-1：小畑、多芸、日吉、室原地域

【資料：農業振興地域整備計画】

図 農業振興地域・農業用区域内農地・農業用施設用地



【資料：農業振興地域整備計画】

3. 農業生産基盤整備開発

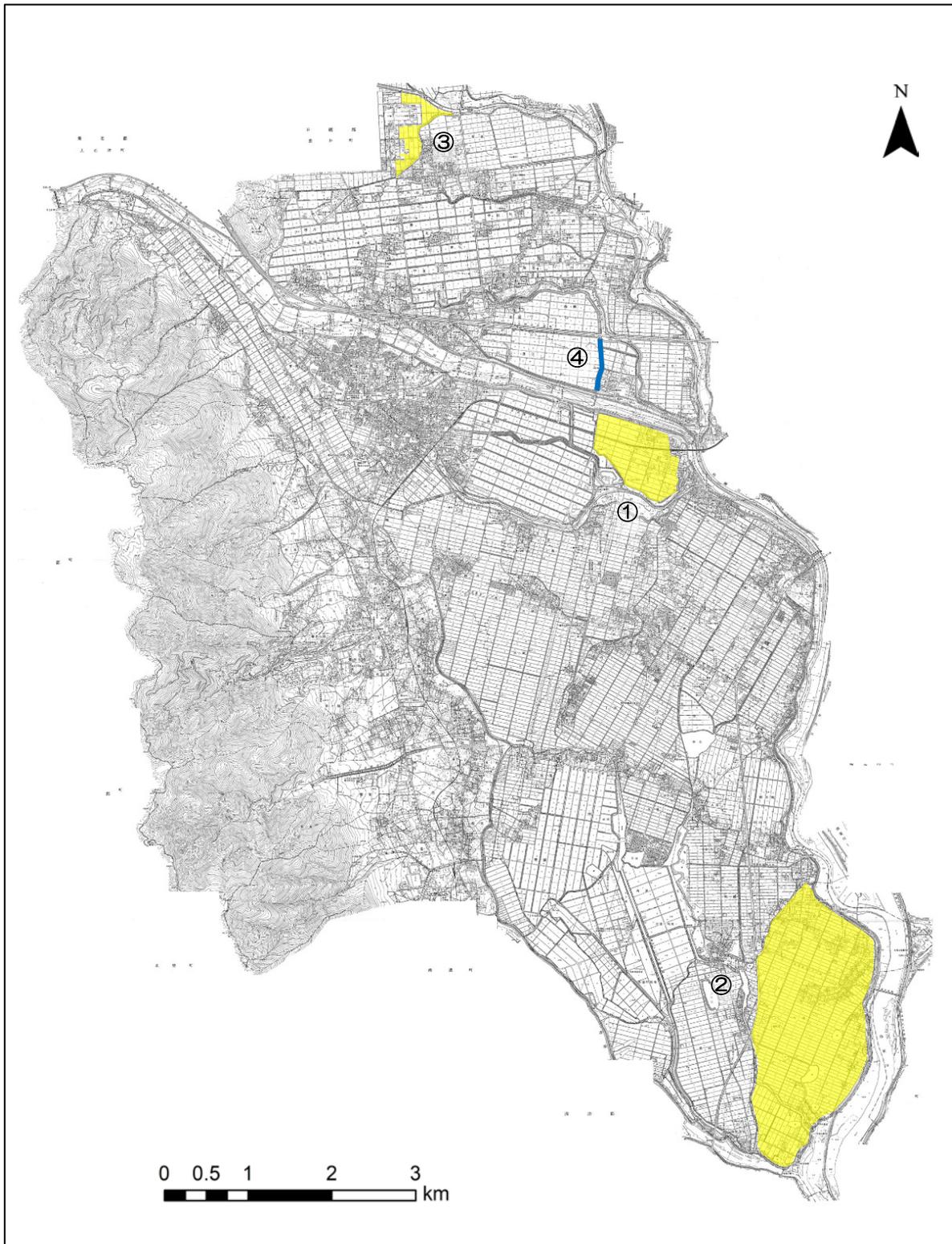
現在予定されている農業生産基盤開発は、高田地域で農業基盤整備促進事業と池辺地域で農業基盤整備事業があります。さらに、室原地域で農業基盤整備事業、多芸地域でかんがい排水事業があります。町では、担い手への農地集積の加速化や農業の高付加価値化の推進等により、競争力のある農業を展開できる環境を整えるため、農業基盤整備の推進を図っています。

表 農業生産基盤整備開発

番号	事業の種類	地区名	事業の概要	備考
①	農業基盤整備促進事業	烏江地区	暗渠排水 A=39.2ha 区画拡大 A=39.2ha	H31～R3
②	農業基盤整備事業	大巻地区	ほ場整備 A=220ha	R4～R16（予定）
③	農業基盤整備事業	室原小栗栖地区	ほ場整備 A=13ha	R4～R9（予定）
④	かんがい排水事業	多芸直江地区	排水路 L=700m	R2～R5（予定）

【資料：養老町】

図 農業生産基盤整備開発

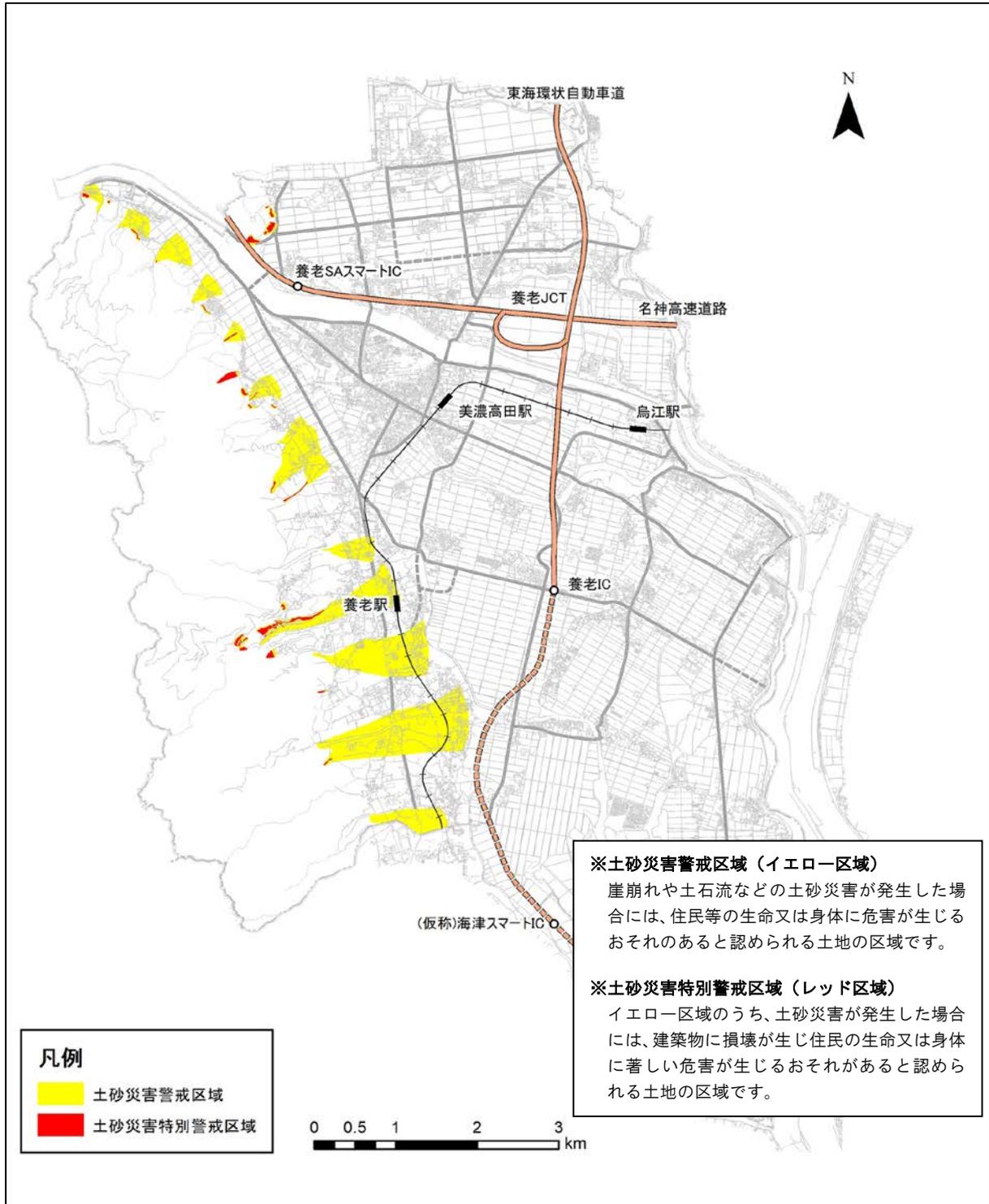


【資料：農業振興地域整備計画】

4. 土砂災害警戒区域

本町西側の養老山地に、土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域が指定されています。

図 土砂災害警戒区域



【資料：国土数値情報】

2-10 その他

1. 防災の状況

(1) 災害の発生状況

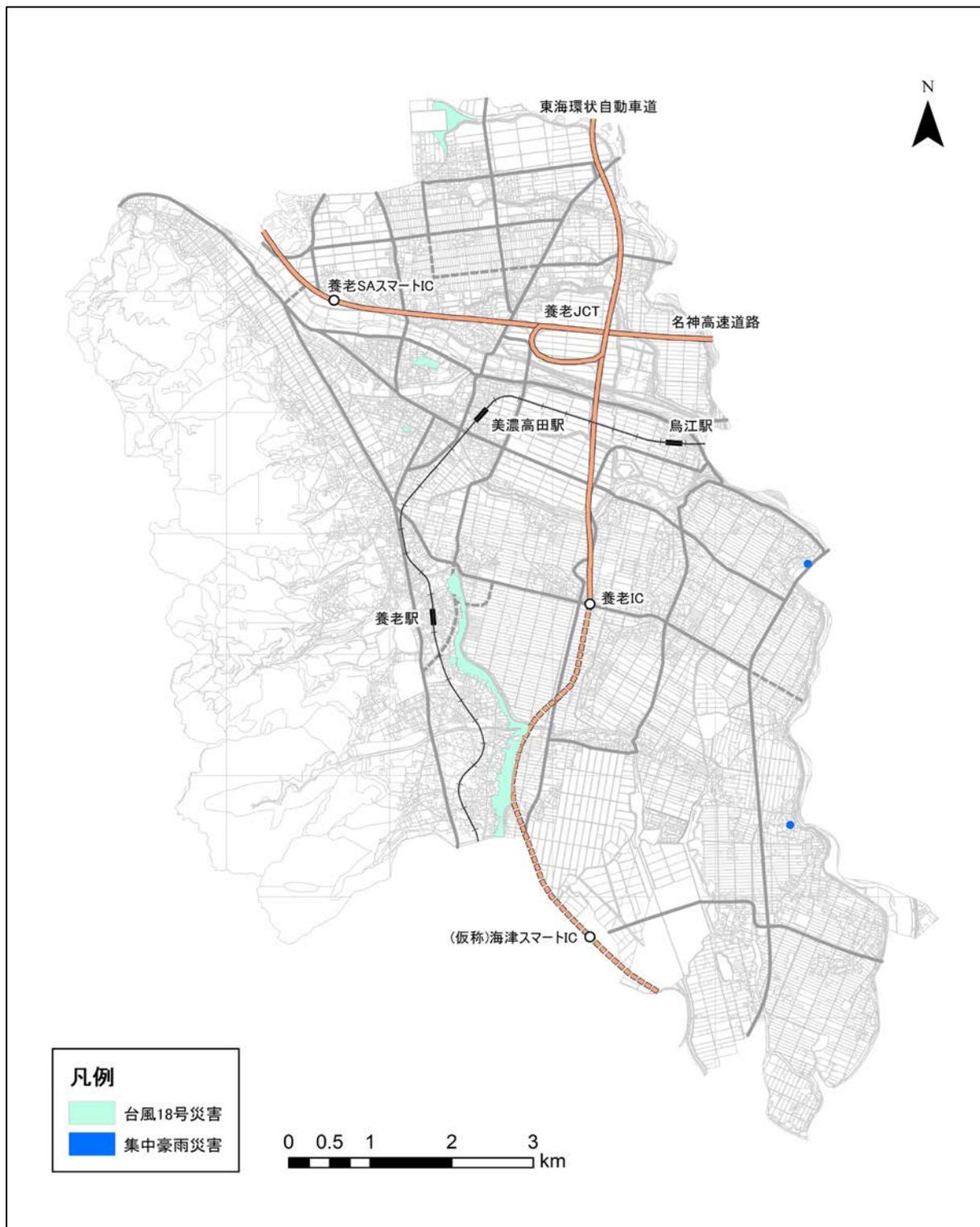
本町で発生した災害は、主に水害となっており、床下浸水の被害が多くみられます。2013年9月4日に発生した集中豪雨では2棟、同年9月15日に発生した台風18号の被害では79棟、合わせて81棟の床下浸水に見舞われました。

表 過去の災害

内容	災害名	発生年月日	位置等	被害内容				
				浸水面積 (ha)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	最大時間雨量 (mm/h)	
水害	外水	-	-	-	-	-	-	
	内水	集中豪雨災害	2013年9月4日	不明	不明	0	2	108
		台風18号災害	2013年9月15日	杭瀬川江月堤防法面漏水	0.1	0	0	不明
				津屋川浸水	38.9	0	0	不明
				口ヶ島水路道路路面冠水	0.3	0	0	不明
				寿町浸水	3.1	0	58	不明
				鷺巣床下浸水	不明	0	2	不明
				平東道路冠水	0.4	0	0	不明
				押越道路冠水床下浸水	0.5	0	18	不明
				宇田床下浸水	0.2	0	1	不明

【資料：都市計画基礎調査】

図 過去災害の被災状況



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

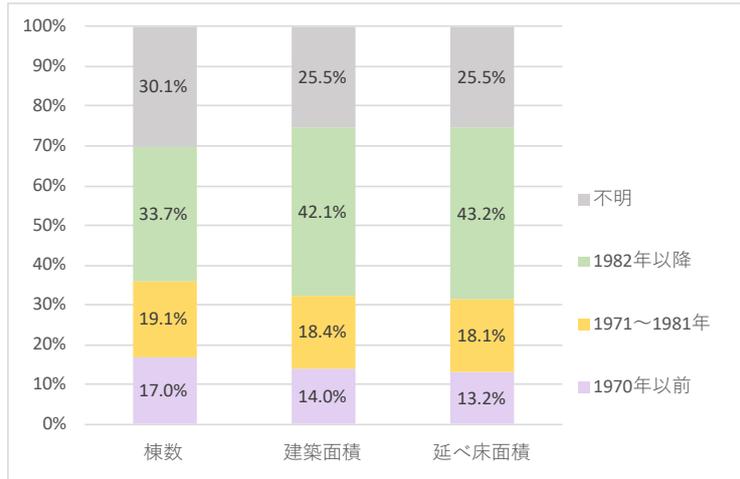
【資料：都市計画基礎調査】

(3) 老朽化建物

本町の老朽化建物（旧耐震基準である1981年以前に建てられた建物）は9,161棟あり、全体の1/3以上が老朽化しています。

養老鉄道駅周辺の老朽化率は、美濃高田駅周辺が最も高く59.1%、次に養老駅周辺が50.0%となっており、50%を超える高い水準となっています。

図 建物の棟数、面積別の建築年代の構成比



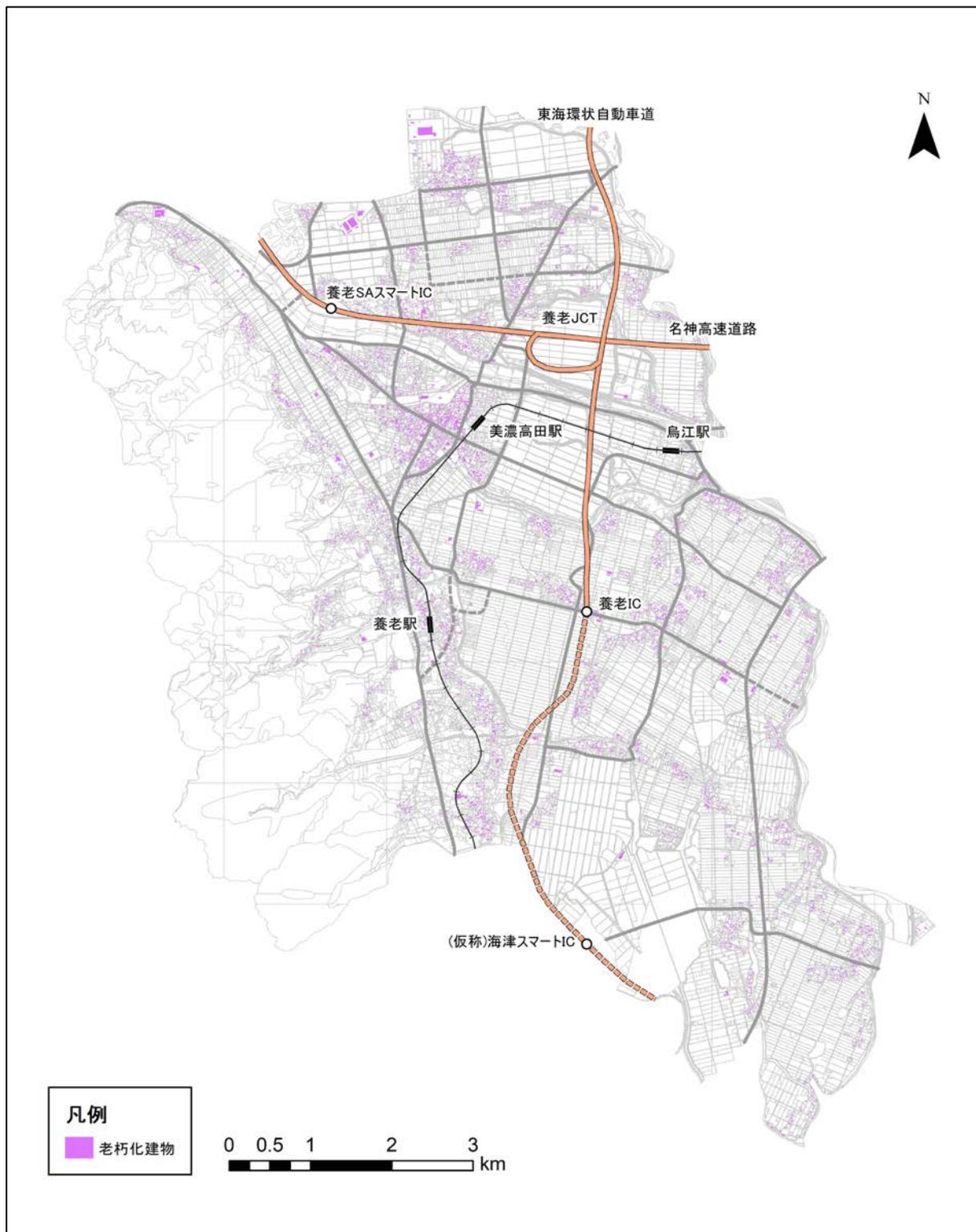
【資料：都市計画基礎調査】

表 建築年代別建物棟数、建築面積、延べ床面積

	1970年以前		1971~1981年		老朽化建築物		1982年以降		不明	
	①	構成比	②	構成比	①+②	構成比		構成比		構成比
棟数(棟)	4,315	17.0%	4,846	19.1%	9,161	36.1%	8,553	33.7%	7,638	30.1%
建築面積(m ²)	382,232	14.0%	502,031	18.4%	884,263	32.5%	1,144,814	42.1%	692,904	25.5%
延べ床面積(m ²)	507,294	13.2%	696,320	18.1%	1,203,614	31.3%	1,658,354	43.2%	980,050	25.5%

【資料：都市計画基礎調査】

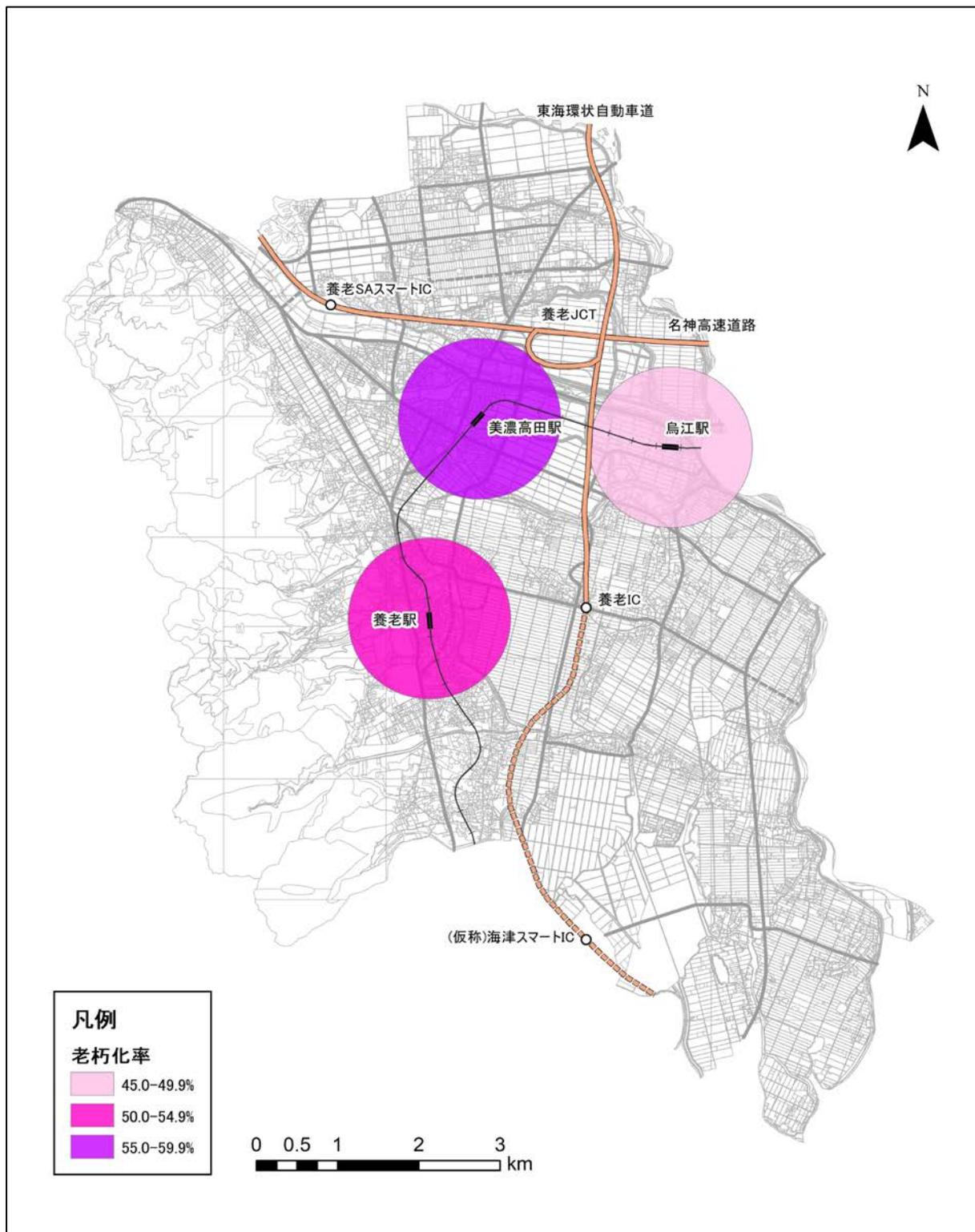
図 老朽化建物の現況



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

図 養老鉄道駅から半径 1kmの老朽化率



※下図は、2015年の都市計画基礎調査のものを使用しています。

【資料：都市計画基礎調査】

(4) 空き家

本町の空き家と思われる件数は413件で、地区別にみると、中心市街地である高田地区が最も多く158件となっています。

全空き家のうち、適正に管理されている空き家と除却又は入居が確認されたものは222件あり、約半数が適正に管理されていません。

表 地区別の空き家数

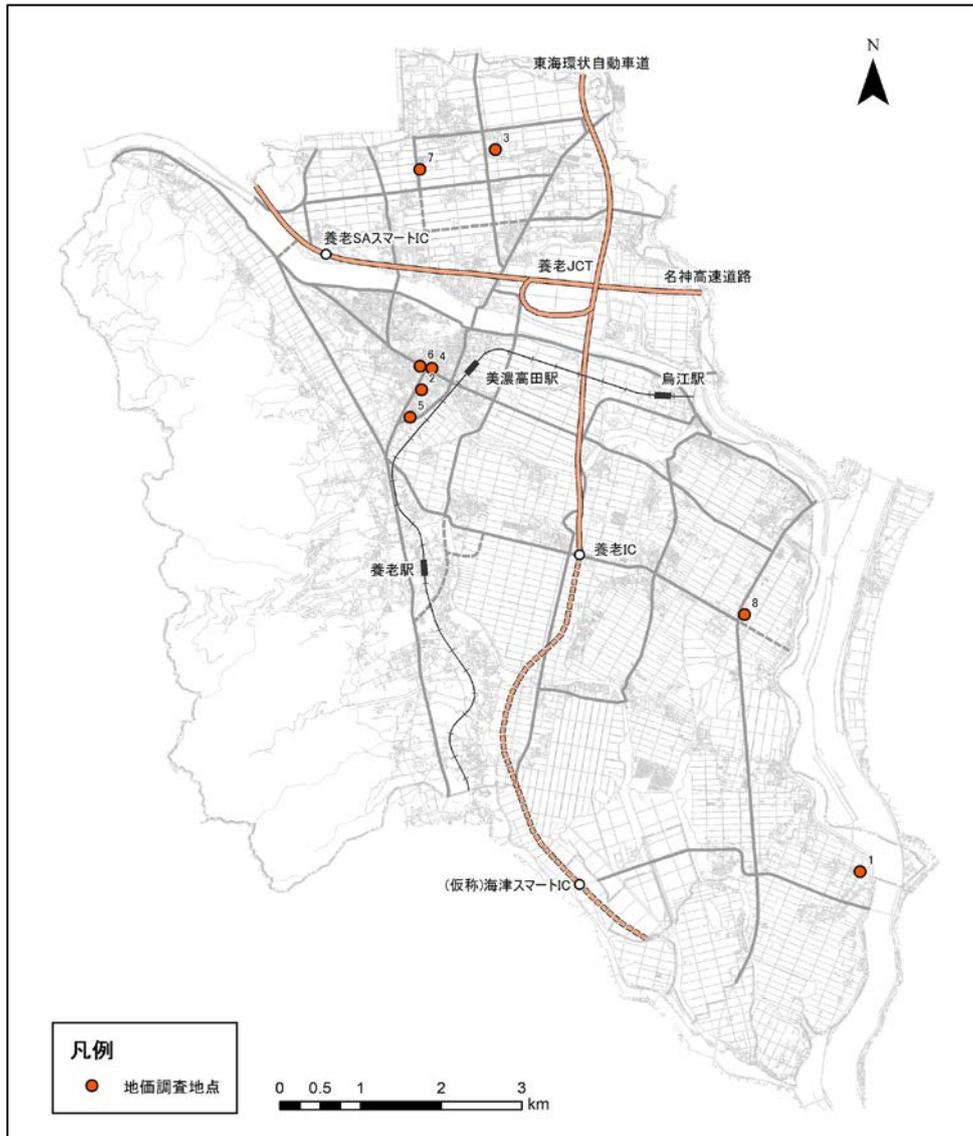
地区名	空き家と 思われる 件数	空き家の状況			除却又は 入居が確認 されたもの
		空き家の老朽度 損傷報告有り	管理不十分	適正管理 されている	
高田地区	158	20	26	93	19
養老地区	29	11	14	2	2
広幡地区	31	2	11	13	5
上多度地区	17	2	7	5	3
池辺地区	44	10	22	10	2
笠郷地区	33	4	13	13	3
小畑地区	29	1	11	12	5
多芸東部地区	1	1	0	0	0
多芸西部地区	23	5	10	7	1
日吉地区	35	9	9	16	1
室原地区	13	2	1	7	3
合計	413	67	124	178	44

【資料：養老町】

2. 地価の状況

2018年時点で、中心市街地である美濃高田駅周辺（下図2・4・5・6）の地価は、町内の中でも比較的高くなっていますが、すべての地点において年々下がっており、1・5・6の地点では2014年と比べて約14%下落しました。

図 地価の状況



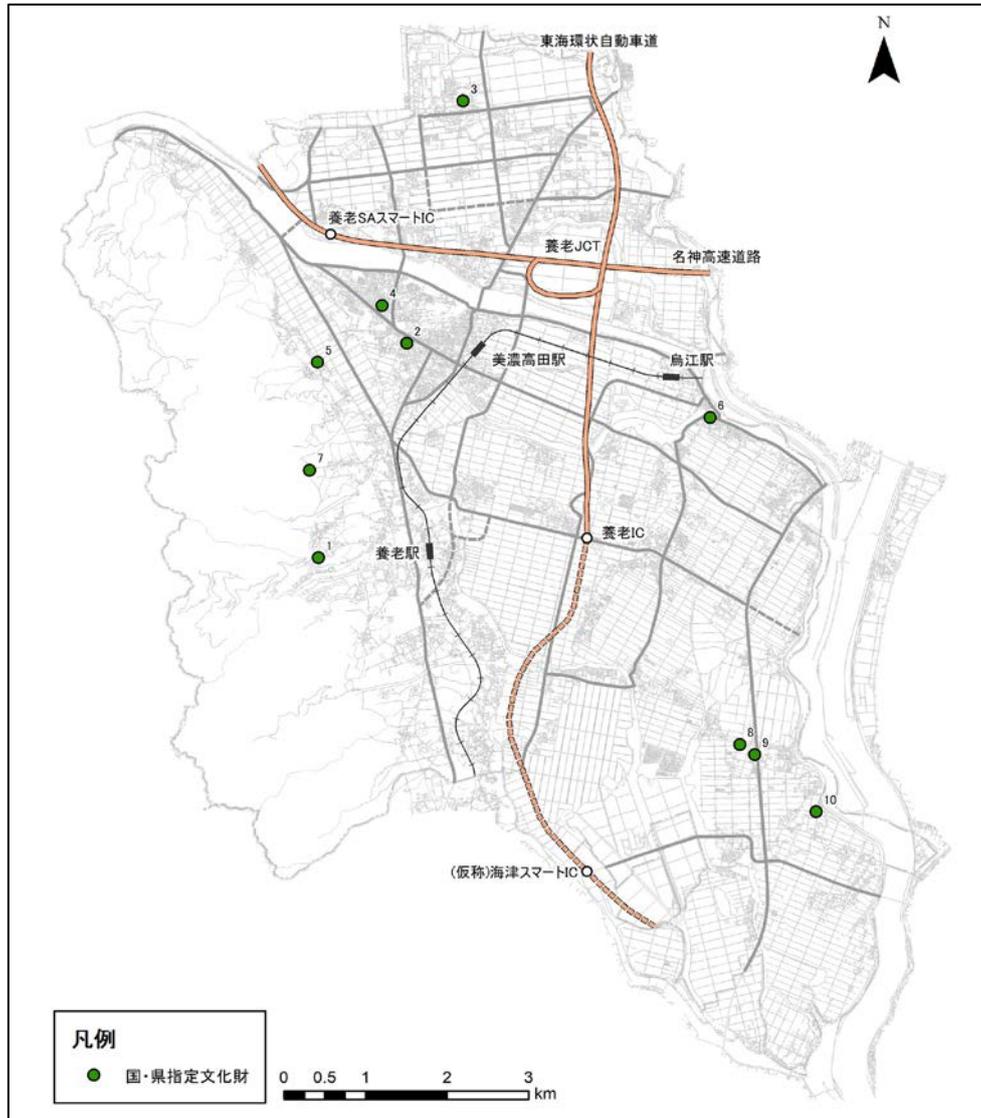
番号	所在及び地番	主な用途	調査主体	地価 (円/㎡)				
				2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1	大巻字ホノ割758番2	住宅	県地価調査	22,900	22,200	21,300	20,500	19,700
2	押越字北河原578番3	住宅	県地価調査	31,000	30,300	29,500	28,800	28,000
3	大坪字堀ノ内447番26	住宅	国土交通省	26,600	25,700	25,000	24,300	23,700
4	高田字高村内634番7外	住宅	国土交通省	-	27,900	27,300	26,700	26,100
5	押越字村前1238番1外	商業	国土交通省	42,700	40,800	39,300	37,900	36,600
6	高田字町141番1	商業	県地価調査	37,800	36,500	35,000	33,600	32,200
7	豊字川原134番1	工業	県地価調査	18,800	18,700	18,600	18,600	18,700
8	船附字大割田1437番外	工業	国土交通省	-	-	-	23,800	23,800

【資料：国土交通省地価公示、都道府県地価調査】

3. 指定文化財

指定文化財は、国指定のものが3件、県指定のものが17件、町指定のものが185件あります。

図 指定文化財(国・県)



位置	指定別	種別種目	名称	位置	指定別	種別種目	名称
1	国	有形文化財	木造十一面千手観音立像	2	県	有形民俗文化財	高田祭曳舳
1	国		剣銘不詳	3	県		室原祭曳舳
1	国		太刀銘国光	6	県	無形民俗文化財	栗笠の獅子舞
1	県		木造釈迦如来立像	1	県		史跡
1	県		木造不動明王立像	7	県	柏尾麁寺跡	
1	県		養老神社経塚出土品	8	県	根古地薩摩工事義歿者墓	
2	県		漆骨蔵器	9	県	天照寺薩摩工事義歿者墓	
2	県		西町舳の木彫	10	県	大巻薩摩工事役館跡	
3	県		木造観世音菩薩立像	5	県	天然記念物	
4	県		懸仏				
5	県	古瀬戸					

【資料：養老町】

4. 観光動向

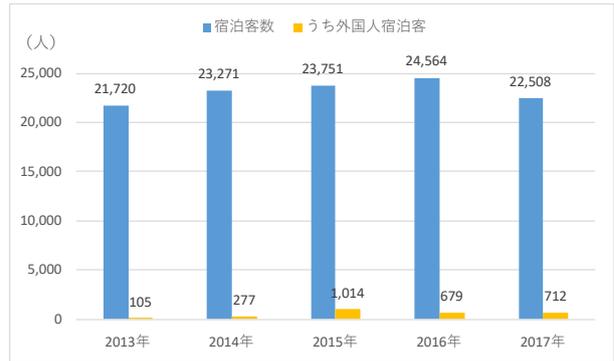
本町の入込客数は100万人を超える集客となっており、2017年には、111.1万人となっています。

宿泊客数は2016年まで増加傾向でしたが、2017年に落ち込んでいます。また、外国人宿泊客は2015年まで増加しましたが、近年は700人程度で推移しています。

図 入込客数



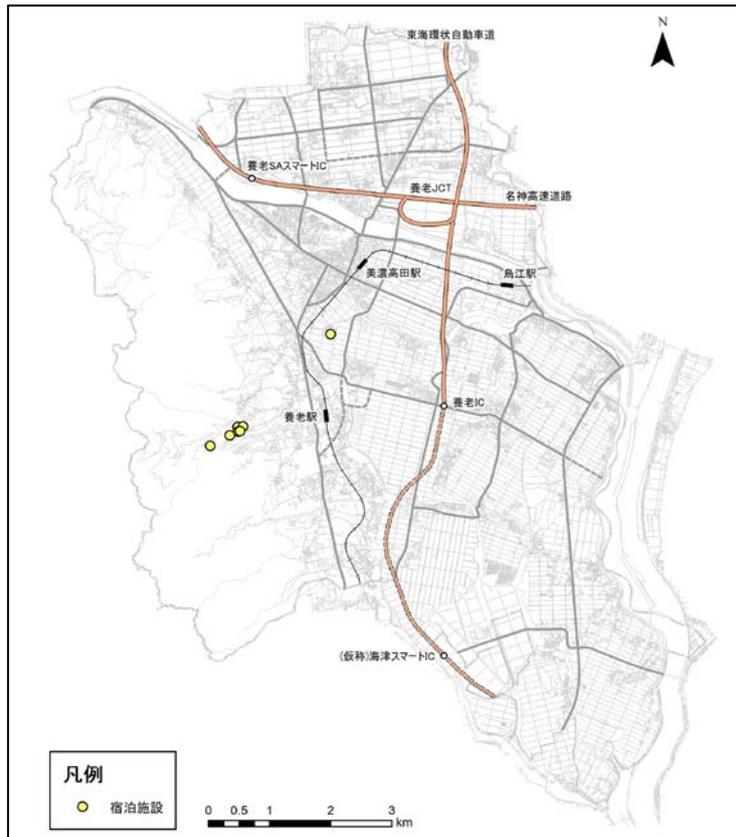
図 宿泊客数



※入込客数は養老駅利用者と養老公園周辺駐車場から推測される利用者にとこの国・天命反転地・楽市楽座・ゆせんの里の利用者を合計したもの

※宿泊客数は菊水・滝元館・千歳楼・清風楼・豆馬亭・ホテルなでこ・養老キャンプセンターの宿泊者数

図 宿泊施設の位置



【資料：養老町、岐阜県観光入込客統計調査】

2-11 現況のまとめ

人口・世帯・ 人口動態	<p>[人口・世帯数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総人口は、減少傾向にあり 2015 年の人口・世帯数は 29,029 人・9,378 世帯になっています。 ・年齢別にみると 15 歳未満、15～64 歳人口は減少傾向にあります。一方で、65 歳以上人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。 <p>[人口動態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然減、社会減が続いています。 ・通勤・通学による流出・流入数は、流出が 9,227 人に対して流入 5,628 人で流出超過となっています。
土地利用・ 建物利用	<p>[土地利用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高田地区を中心に住宅の集積がみられ、その他の地域はほとんどが田を主とする農地が広がっています。商業用地は一般国道 258 号や(主)南濃関ヶ原線・(一)養老赤坂線沿道に集積しています。工業用地は比較的大規模なものが点在しています。 <p>[建物利用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物棟数では、住宅が最も多く全体の約 75%を占めています。 ・工場は建物棟数が 5.5%にも関わらず、建築面積では 16.6%となっており、大規模な工場が立地していることが推測されます。 ・その他に、農林漁業用施設は 916 棟あり、農地と住宅地の境に広く分布しており、文教厚生施設は 1,502 棟あり、各地に点在しています。
産業構造	<p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家数は 2005 年から 2015 年にかけて 10 年間で 895 戸減少しています。経営耕地面積も同様に 10 年間で 701ha 減少しています。 <p>[工業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業事業所数は減少傾向にあり 2016 年には 95 事業所となっています。従業者数は、2014 年まで減少傾向でしたが、2016 年に増加し 3,201 人となっています。また、製造品出荷額等は、2012 年に減少しましたが以降増加し 2016 年には、83,906 百万円となっています。 <p>[商業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業事業所数・従業者数は減少傾向にありましたが、2016 年にともに少し増加しました。 ・年間商品販売額は 2012 年に減少しましたが、近年は増加傾向にあります。
交通体系	<p>[道路網]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道 258 号と(主)大垣養老公園線・(主)南濃関ヶ原線・(一)養老平田線が道路網の骨格を形成しています。 ・2017 年に養老 IC、2018 年に養老 SA スマート IC が開通したことで高速道路へのアクセス性が向上しました。 <p>[鉄道]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町を南北に養老鉄道が通っており、町内に美濃高田駅・烏江駅・養老駅の 3 駅があります。 ・1 日あたりの乗降者数は、養老駅・美濃高田駅では 2005 年から減少傾向にあります。烏江駅もまた、2010 年を境に減少傾向にあります。

	<p>[バス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスとオンデマンドバスが運行しています。 ・路線バスは2路線ですが、公共施設巡回バスから移行したオンデマンドバスが公共交通空白地域を補完しています。
<p>市街化状況と動向</p>	<p>[DID]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2005年にDIDの要件を満たさなくなったため指定から外れました。 <p>[建築着工状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年から過去10年間による建築着工棟数は1,221棟で、町内の全建物棟数25,353棟に対して4.8%とかなり低い割合となっています。また、そのほとんどが主要な道路の沿道に集積しています。 <p>[農地転用状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転用後の用途として、最も多いのは商業系で、次いで住居系が多くなっています。 <p>[開発状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1955年に多芸、1980年に御所馬場、2008年には島田で、宅地造成が完了しました。工業・商業用途をはじめとした開発許可による開発が11件あります。
<p>都市施設</p>	<p>[都市計画道路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町の都市計画道路は、5路線となっており、未着手部分がある路線は3路線です。 <p>[公園・緑地]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画公園は、養老公園と中央公園の2箇所あります。 <p>[下水道]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道の他にコミュニティ・プラントと農業集落排水があります。公共下水道は美濃高田駅周辺などの市街地を処理範囲としています。 <p>[その他都市施設]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場、消防署が高田地区に位置しており、文化施設は高田地区に5箇所、南西の養老公園付近に4箇所と、一部地域に集中しています。警察署は駐在所を含めて町内に7箇所あり、町内各地に点在しています。 ・保育園・こども園が10箇所、小学校が7箇所、中学校が2箇所、高等学校が1箇所あり、各地に点在しています。 ・福祉施設は18箇所あり、その約半数が高田地区に集中しています。
<p>関連法規制</p>	<p>[国定公園]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町の西側の養老山地に、揖斐関ヶ原養老国定公園が位置しています。 <p>[農振・農用地・農業生産基盤開発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域は5,173haであり、町の約72%を占めています。 ・農用地区域内農地は2,168haとなっており、養老山地の麓と高田地区を除く平野部の大半が農用地区域内農地となっています。 ・現在4件の農業生産基盤開発があります。 <p>[土砂災害警戒区域]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町西側の養老山地に、土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域が指定されています。

その他	<p>[防災の状況]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2013年9月の集中豪雨と台風18号により、81件の床下浸水に見舞われました。・ 牧田川が氾濫した際は、可住地全域に浸水の被害が予想されます。・ 建物のうち1981年以前の旧耐震基準である老朽化建物は、全体の約1/3以上の9,161棟あります。・ 本町の空き家と思われる件数は、413件となっており、地区別にみると高田地区が最も多く158件となっています。 <p>[地価の状況]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中心市街地である美濃高田駅周辺は、比較的高くなっていますが、本町全体では、年々低下しています。 <p>[景観・指定文化財]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 指定文化財は、国指定のものが3件、県指定のものが17件、町指定のものが185件あります。 <p>[観光動向]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 入込客数は100万人を超える集客となっています。・ 宿泊客数は2016年まで増加傾向でしたが、2017年に落ち込んでいます。また、外国人宿泊客は2015年まで増加しましたが、近年は700人程度で推移しています。
-----	---

第3章 住民意識の把握

- 3-1 アンケートの実施状況
- 3-2 アンケートの解析結果



第3章

第3章 住民意識の把握

3-1 アンケートの実施状況

1. 調査概要

- 調査期間：2018年9月27日～10月19日
- 調査方法：配布（郵送）、回収（郵送）
- 回収状況：配布数 2,000 通、回収数 888 通（回収率 44.4%）
- 調査対象：養老町在住の18歳以上の方から2,000名を無作為抽出
- 調査内容

◆回答者の基礎的情報

- ・回答者の基礎的情報
(性別、年齢、就業・通学場所、居住地区)

◆現在の養老町に関する評価

- ・現在の養老町の印象について
- ・町のシンボルや自慢できるものについて
- ・定住意向
(定住したい理由、転居したい理由をそれぞれ把握)

- ・生活環境に関する満足度

◆将来の養老町に対する要望

- ・将来の養老町のイメージ
- ・今後のまちづくりに重要だと思うものについて
(地域活性化、養老 SA スマート IC・養老 IC、農地、商業地、工業地、住宅地、自然、道路・交通、公園・緑地、下水道・河川)

◆クロス集計

- ・年齢層×(現在の養老町の印象・生活環境の満足度・将来イメージ)
- ・地域×(現在の養老町の印象・生活環境の満足度・将来イメージ)

◆自由意見

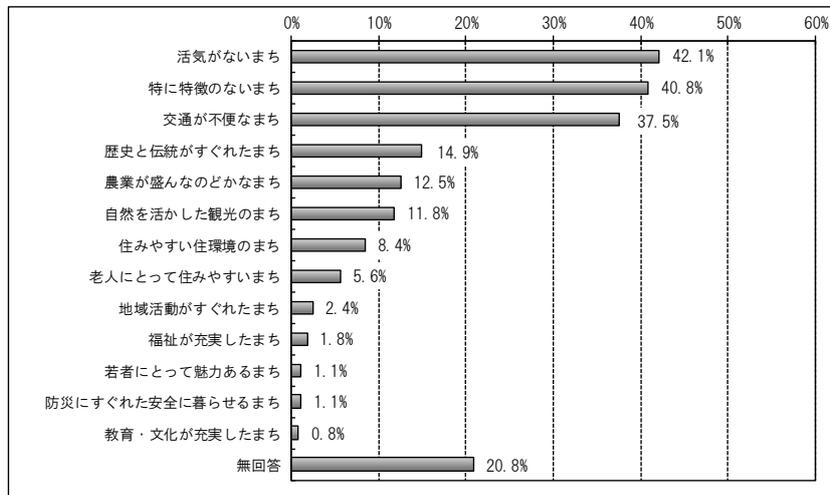
3-2 アンケートの解析結果

1. 将来像について

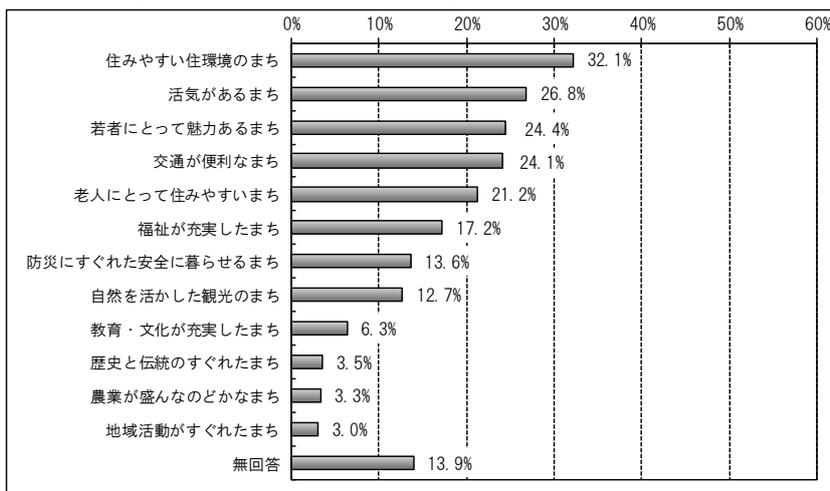
現在の本町の印象は、「活気がないまち」や「特に特徴のないまち」といったマイナスな意見が多いですが、将来的には、住みやすく活気があるまちにしたいと考えている住民が多いです。運輸業などの企業誘致の推進、大規模商業施設や幹線道路沿道の商業施設の誘致を望む声が多く、本町の約4割を占める農地は、新たな土地利用を望む意見と保全や農的利用を望む声が半々になっています。

⇒問5. 11. 12（地域活性化、養老 SA スマート IC・養老 IC、農地、商業地、工業地）

問5 現在の養老町の印象

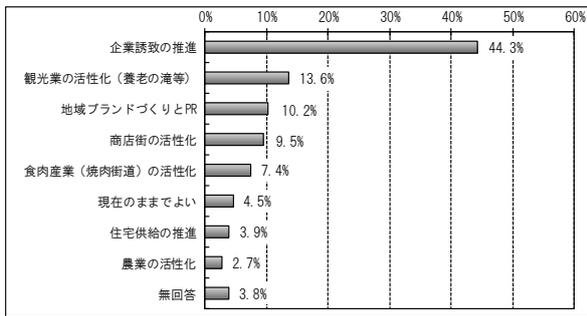


問11 こうなっていきたいと思う、将来の養老町のイメージ

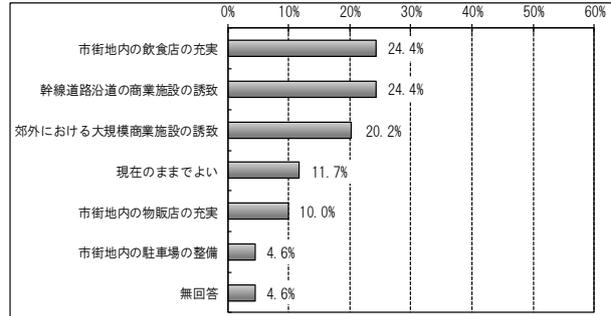


問 12 これからの養老町のまちづくりについて、特に重要だと思うもの(1つ)

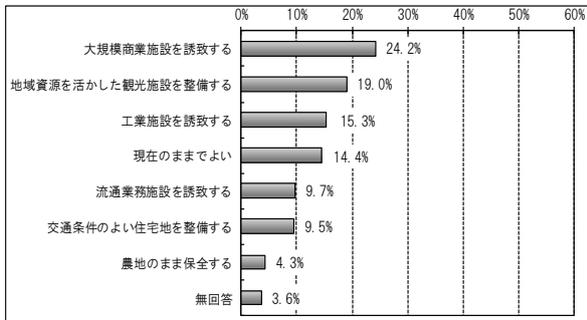
【地域活性化について】



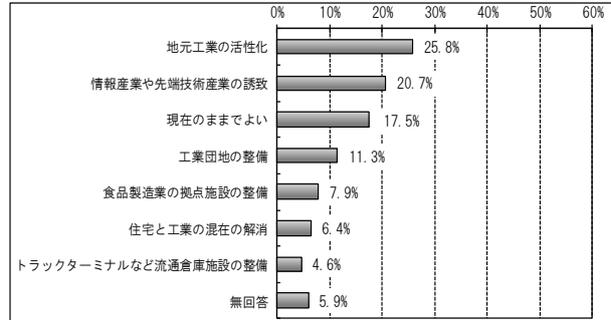
【商業地について】



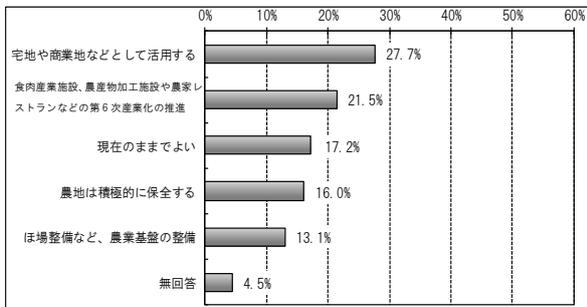
【養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺について】



【工業地について】



【農地について】



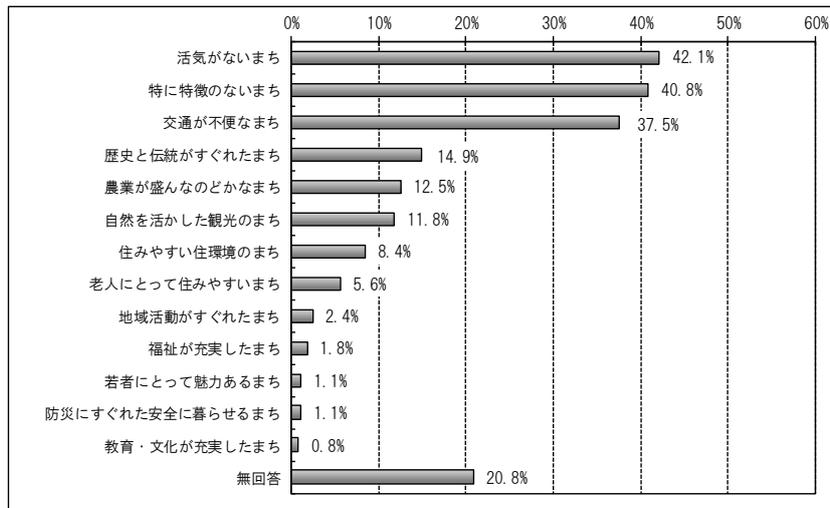
2. 地域ブランドについて

本町のシンボルを「養老の滝（孝子伝説）」と回答している人が多い一方で、現在の本町の印象として「歴史と伝統がすぐれたまち」という意見は少なくなっています。

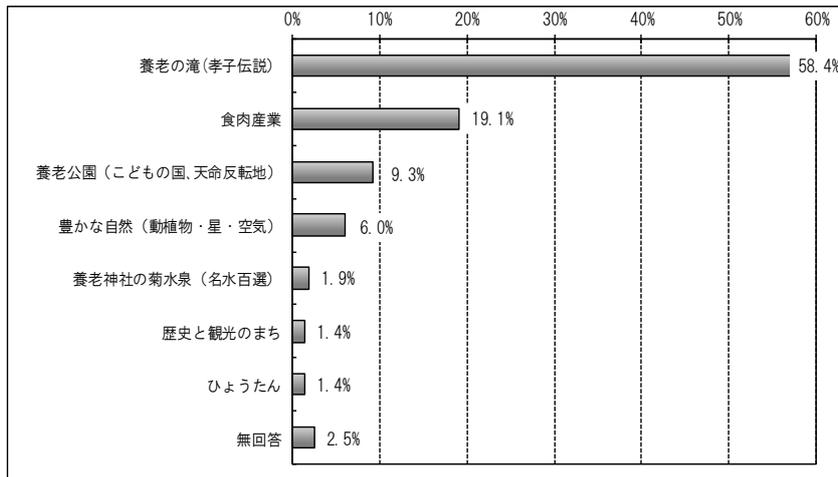
また、養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺では、大規模商業施設の誘致や地域資源を活かした観光施設の整備を望む声が多くなっています。

⇒問 5. 6. 12（地域活性化、養老 SA スマート IC・養老 IC、農地、自然）

問5 現在の養老町の印象

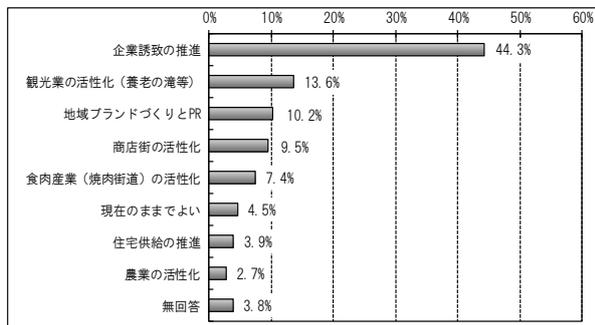


問6 町の「シンボルや自慢できるもの」

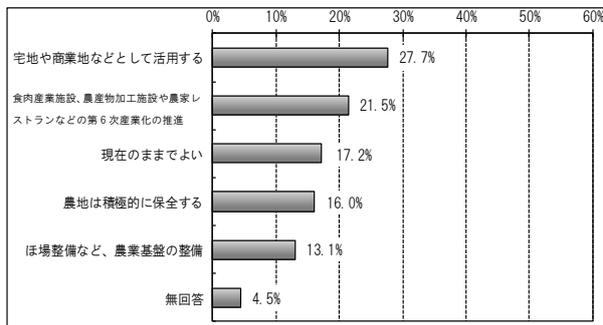


問 12 これからの養老町のまちづくりについて、特に重要だと思うもの(1つ)

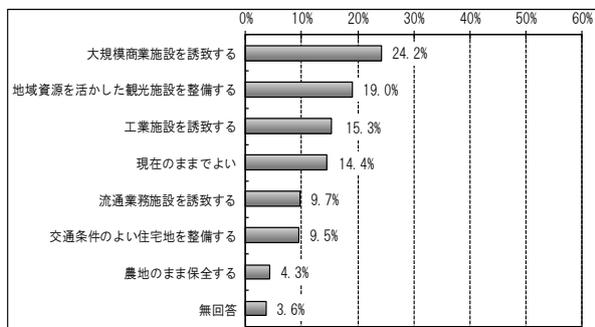
【地域活性化について】



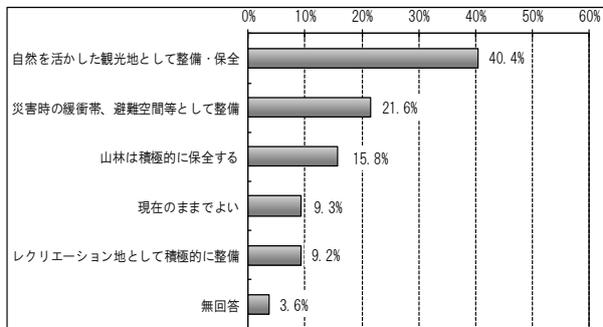
【農地について】



【養老 SA スマート IC・養老 IC 周辺について】



【自然について】

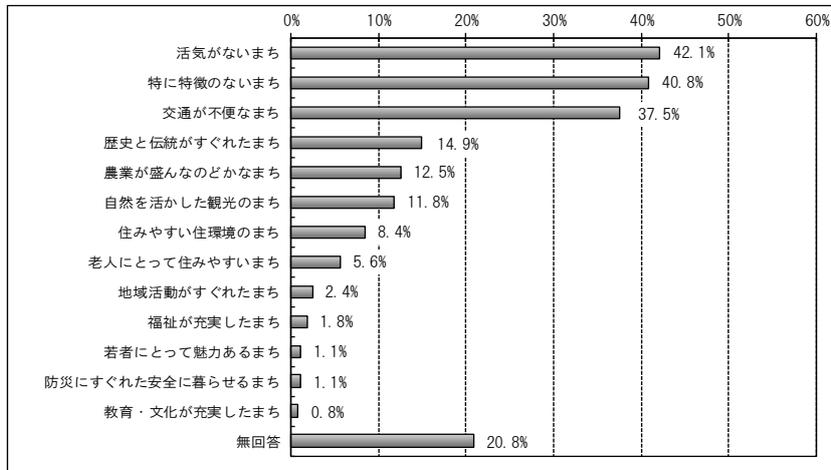


3. 住環境について

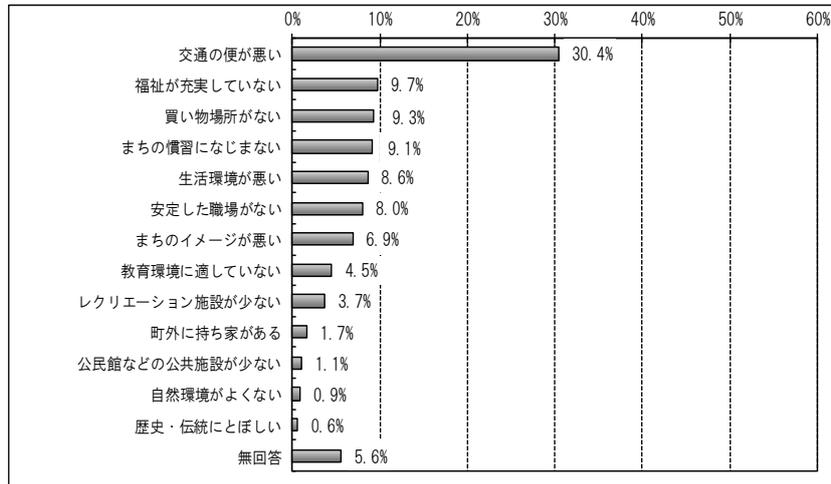
将来的に、「住みやすい住環境のまち」を望む住民が多くなっています。現在の生活環境については、「交通が不便なまち」と感じている住民が多く、本町から転居したい一番の理由となっています。住宅地については、「自然環境と調和の図った住宅地の形成」が望まれ、道路や歩道、交通安全施設（街灯やミラーなど）、下水道、身の回りの小公園の整備を望む声が多くなっています。

⇒問 5. 9. 10. 11. 12（住宅地、道路・交通、公園・緑地）

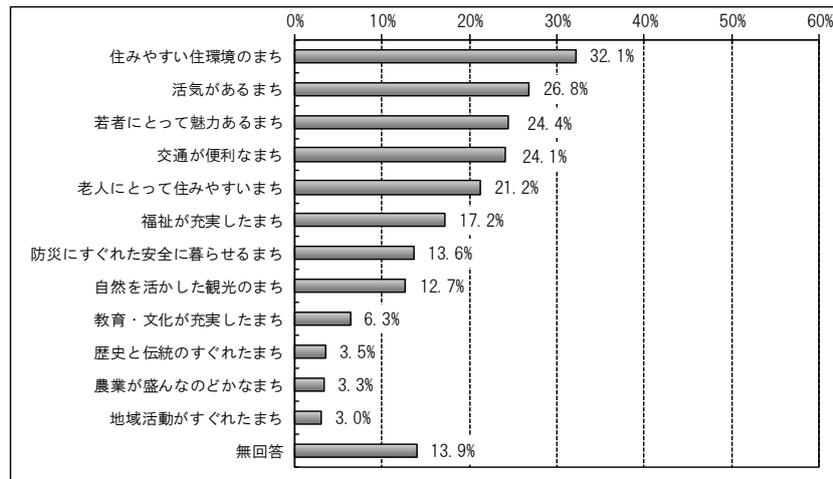
問5 現在の養老町の印象について



問9 「転居したい」とする回答者の意向理由

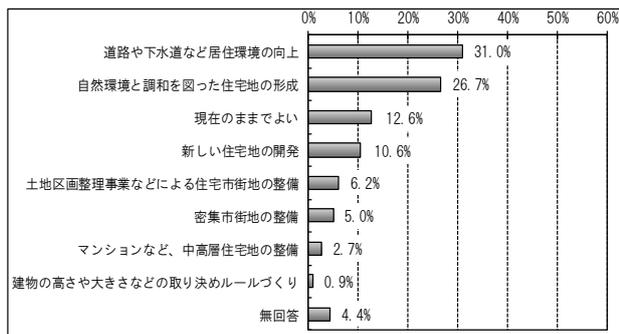


問 11 こうなっていほしいと思う、将来の養老町のイメージ

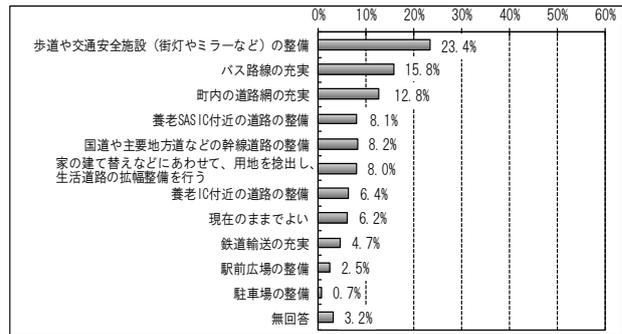


問 12 これからの養老町のまちづくりについて、特に重要だと思うもの

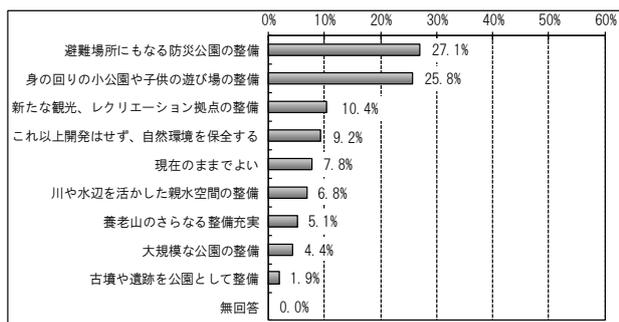
【住宅地について】



【道路・交通について】



【公園・緑地について】



問 10 現在の生活環境に関する満足度(5段階評価のうち、あてはまるもの1つ)

満足 ← 普通 → 不満

項目	満足 (良い)	まあ満足 (良い)	普通	やや不満 (悪い)	不満 (悪い)
	1	2	3	4	5
1) 公共交通機関の利便性					4.0
2) 生活道路(住宅まわりの道路)				3.3	
3) 歩行者に対する安全性				3.5	
4) 下水道				3.4	
5) 買い物の便利さ			3.2		
6) 駐車場			2.9		
7) 騒音・悪臭などの公害			2.9		
8) 防火・防災、避難の安全性			3.2		
9) 交通安全			3.0		
10) ごみ・し尿処理			2.9		
11) 保健・医療施設			3.1		
12) 教育・文化施設			3.2		
13) レジャー、観光、スポーツ施設			3.4		
14) 福祉施設			3.3		
15) 公民館等の公益施設の整備			3.2		
16) 緑や川など自然の豊かさ		2.4			
17) 空き家対策				3.7	
18) 子供の遊び場や公園				3.7	
19) ご近所の人と人のつながり				3.7	
20) 現在の余暇時間や余暇活用			3.0		
21) まち並みの景観や雰囲気			3.1		
22) まちの活気や魅力			3.2		
23) 総合的な身の回りの環境			3.3		

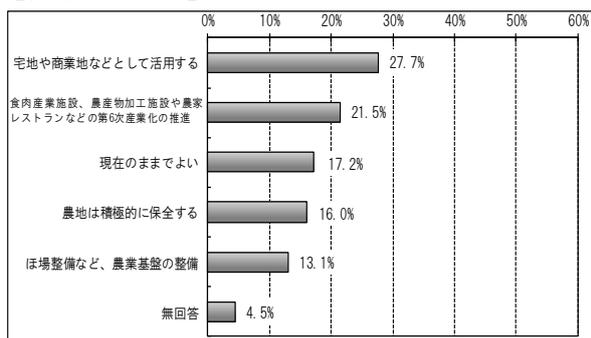
4. 産業振興について

工業面では、地元工業の活性化や、情報産業や先端技術産業の誘致を望む声が多くあります。商業面では、市街地内の飲食店の充実や幹線道路沿道の商業施設の誘致を望んでおり、農業面では、新たな土地利用を望む意見と保全や農的利用を望む声が半々になっています。

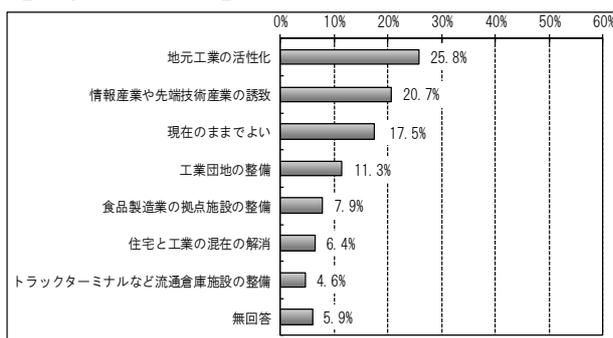
⇒問 12（農地、商業地、工業地）

問 12 これからの養老町のまちづくりについて、特に重要だと思うもの(1つ)

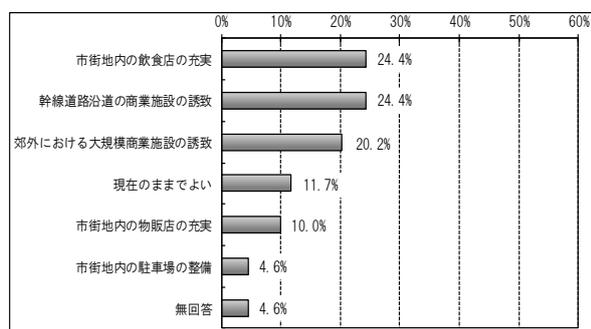
【農地について】



【工業地について】



【商業地について】

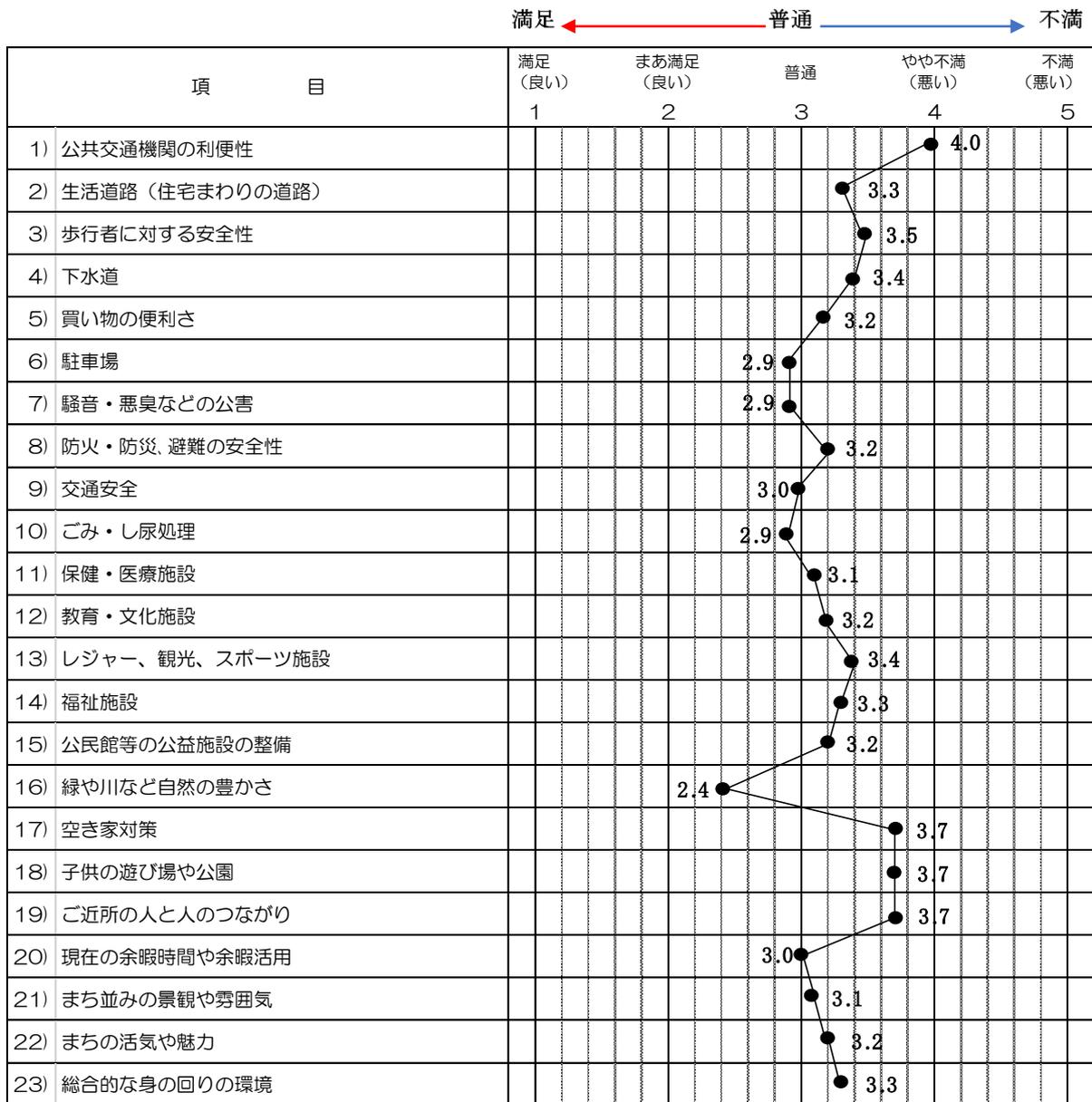


5. 公共施設について

公共交通の利便性や生活道路、歩行者の安全性、下水道、子供の遊び場や公園に対して不満に感じている住民が多いです。公園については、避難場所にもなる防災公園としての整備、その他に河川の治水対策や歩道、交通安全施設（街灯やミラーなど）の整備を望む声が多いです。

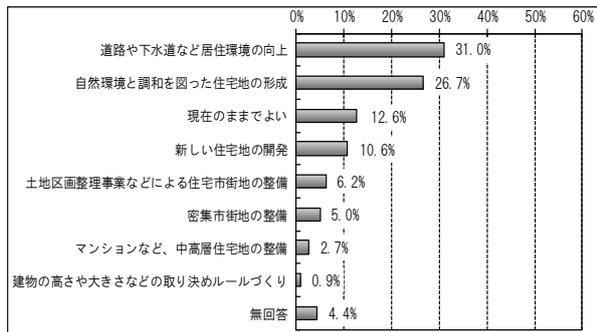
⇒問 10. 12（住宅地、道路・交通、公園・緑地、下水道・河川）

問 10 現在の生活環境に関する満足度(5段階評価のうち、あてはまるもの1つ)

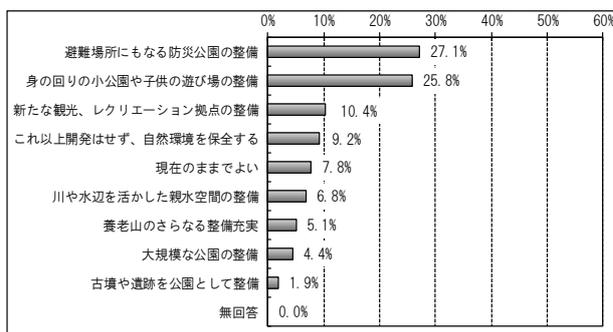


問 12 これからの養老町のまちづくりについて、特に重要だと思うもの(1つ)

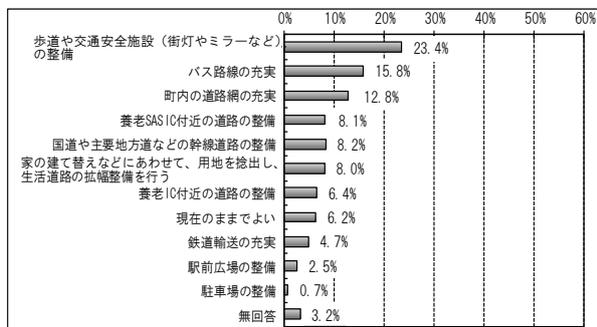
【住宅地について】



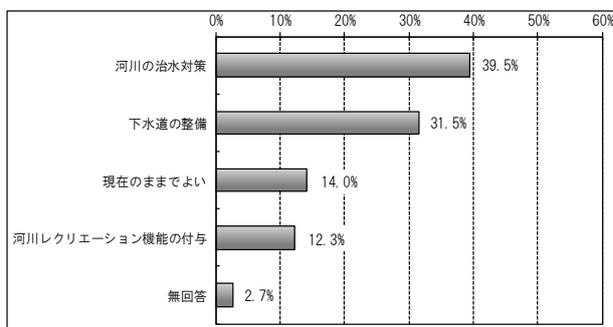
【公園・緑地について】



【道路・交通について】



【下水道・河川について】





養老町都市計画マスタープラン

養老町 産業建設部 建設課

〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田 798

TEL 0584-32-5081